

平成30年度

科目番号	2132	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	吉田弘子
科目名	英語(2)								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 これまで培ってきた単語力、文法力を実際にどのように運用していくのか、その応用力が身につく。ネイティブスピーカーの英会話を聞き内容が理解できる。</p> <p>テーマ 映画を通して生きた言葉としての英語を学ぶ。視覚と聴覚、体感から実践的な英語コミュニケーション能力の強化を図る。</p>								
授業の概要	映画視聴・スクリプト穴埋め・解答解説・発話練習を行います。15回目はまとめのレポート作成を行います。								
回	授 業 計 画						自主学習（授業前・授業後）		
1	オリエンテーション スクリプト（以下Sと表示） 配布・説明 映画“Harry Potter and the Philosopher’s Stone” 視聴 （第1回目は日本語字幕版、英語字幕版ともに0:00～0:25min程）						授業後 ・配布されたプリントの英文の単語の意味や用法を辞書等で調べ、理解を深めておくこと ・感想欄を記入しておくこと		
2	S 解答解説・文法確認 S 配布・説明 映画視聴（0:25～0:50min程）						同上		
3	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（0:50～1:15 min程）						同上		
4	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（1:15～1:40 min程）						同上		
5	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（1:40～2:05 min程）						同上		
6	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（2:05～2:32 min.SERIES 終了）						同上		
7	S 解答解説・文法確認・発話練習 映画“Harry Potter and the Chamber of Secrets” S 配布・説明 映画視聴（0:00～0:25 min程）						同上		
8	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（0:25～0:50 min程）						同上		
9	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（0:50～1:15 min程）						同上		
10	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（1:15～1:40 min程）						同上		
11	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（1:40～2:05 min程）						同上		
12	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（2:05～2:41min.SERIES 終了）						同上		
13	S 解答解説・文法確認・発話練習 映画“School of Rock” S 配布・説明 映画視聴（0:00～0:25 min程）						同上		
14	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（0:25～0:50 min程） 次週のレポートについての説明						同上		
15	レポート作成						授業の前にレポート作成の準備をすすめておくこと		
テキスト	なし								
参考書・資料等	そのつどプリントを配布								
評価方法	授業態度10%、穴埋めプリント50%、期末レポート40%により総合的に評価する。								
履修上の注意等	特になし								

平成30年度

科目番号	2132		単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	吉田弘子		
科目名	英語(2)											
課程	卒業必修			栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト		
				保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター				
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 これまで培ってきた単語力、文法力を実際にどのように運用していくのか、その応用力が身につく。ネイティブスピーカーの英会話を聞き内容が理解できる。</p> <p>テーマ 映画を通して生きた言葉としての英語を学ぶ。視覚と聴覚、体感から実践的な英語コミュニケーション能力の強化を図る。</p>											
授業の概要	前期同様、映画視聴・スクリプト穴埋め・解答解説・発話練習を行います。15回目はまとめのレポート作成を行います。											
回	授 業 計 画							自主学習（授業前・授業後）				
1	映画“School of Rock” S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（0:50～1:15 min程）							授業後、配布されたプリントの英文の単語の意味や用法を辞書等で調べ、理解を深めておくこと。感想欄をまとめておくこと。				
2	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（1:15～1:40min程）							同上				
3	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（1:40～1:48min “School of Rock” 終了）							同上				
4	S 解答解説・文法確認・発話練習 映画“Anastasia” S 配布・説明 映視聴（0:00～0:25 min程）							同上				
5	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（0:25～0:50 min程）							同上				
6	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（0:50～1:15 min程）							同上				
7	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（1:15～1:34 min “Anastasia” 終了）							同上				
8	S 解答解説・文法確認・発話練習 映画“The Devil Wears Prada” S 配布・説明 映画視聴（0:00～0:25min程）							同上				
9	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（0:25～0:50min程）							同上				
10	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（0:50～1:15 min程）							同上				
11	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（1:15～1:40min程）							同上				
12	S 解答解説・文法確認・発話練習 映画視聴（1:40～1:50min “The Devil Wears Prada” 終了） 映画“Stuart Little” S 配布・説明 映画視聴（0:00～0:20min程）							同上				
13	S 解答解説・文法確認・発話練習 S 配布・説明 映画視聴（0:20～0:45min程）							同上				
14	S 解答解説・文法確認・発話練習 映画視聴（0:45～1:24min “Stuart Little” 終了） 次週のレポートについての説明							同上				
15	レポート作成							授業前にレポート作成の準備をすすめておくこと				
テキスト	なし											
参考書・資料等	そのつどプリントを配布											
評価方法	授業態度10%、穴埋めプリント50%、期末レポート40%により総合的に評価する。											
履修上の注意等	特になし											

平成3年度

科目番号	2202	単位	2	授業形態	講義	開講時期	2年後期	担当	本山敬祐
科目名	教育原理(2)								
課程	卒業必修		栄養士 保育士		栄養教諭 幼稚園教諭		医療秘書 ベビーシッター		フードサイエニティスト
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 :幼児教育における教育課程を編成する際に必要な視点や知識を習得する。 :子どもや教育について自分なりの「観」を確立するための土台を作る。</p> <p>テーマ :幼児教育が重要性を専門的に理解し、遊びと学び、教育の質を高めるために求められる事柄の基礎を講義する。 :インクルーシブ保育や夜間保育等の様々な子どもの育ちの場について学び、自身を相対化した上で「観」を磨く。</p>								
授業の概要	<p>人はなぜ教育を受けなければならないのか、どのような教育が「良い」教育なのか、同年齢同士の子どものみだけでなく異年齢混合で遊ぶことで子どもにどのような影響が出てくるのか、遊びと学びにはどのような違いがあるのだろうか、いわゆる「小1プロブレム」に対して就学前教育を担う者として何が出来るか等の問いに対して考える際の視点、データ、実践等について講義する。</p>								
回	授業計画							自主学习(授業前・授業後)	
1	ガイダンス:幼稚園要領の全体像を把握する							授業前:シラバスに目を通す 授業後:講義終了時の問いを考える	
2	「良い」教育とはどんな教育か							授業前:既習事項の復習する 授業後:講義終了時の問いを考える	
3	子ども観を問い直す:「子ども期」の発見							同上	
4	保育者観の問い直し							同上	
5	インクルーシブ保育							同上	
6	異年齢混合遊び							同上	
7	遊びと学び							同上	
8	学校安全							同上	
9	接続期のカリキュラムとカリキュラム・マネジメント							同上	
10	NPOによる遊びの場の保障							同上	
11	子どもの貧困							同上	
12	夜間保育							同上	
13	地域との連携:NPOによる遊びの保障							同上	
14	レジャエミリアの実践から学ぶ :社会や文化の中で子どもを育てる							同上	
15	レジャエミリアの実践から学ぶ :子どもを人間として見る							授業前:14回分の内容の復習 授業後:学習成果をまとめて試験に臨む	
テキスト	幼稚園教育要領(平成29年3月31日告示) 幼稚園教育要領解説								
参考書・資料等	子どもと保育総合研究所編(2103)『子どもを「人間としてみる」ということ 子どもとともにある保育の原点』ミネルヴァ書房。								
評価方法	期末試験:100%。試験は定期試験期間内に実施する。配布資料やノートの持ち込みを可とする。								
履修上の注意等	講義中の無用な私語は厳禁とする。受講態度が悪い場合はその場で退室を命じることがある。								

科目番号	2203		単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	笹森 雅子		
科目名	教育方法・技術											
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト			
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター					
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 自身の学校生活と関連させながら、授業と学びの営みを理解する。子どもたちが主体的に参加する授業の要素を配慮しながら、指導計画を立案する。教育の情報化に伴い、その活用方法と課題を記述する。</p> <p>テーマ 学習者を意識した教育方法の工夫～メディアを利用した授業(教育活動)</p>											
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様式、歴史とともに変貌する学校教育の実情を理解する。 ・教授活動を一つのモデルとして捉え、授業のデザイン・評価について理解する。 ・子どもが意欲的に参加する授業にメディアが果たす役割を学ぶ。 ・具体的にパーソナルコンピュータを利用してスライド教材を作成し、学習を適切かつ効果的に成立させる方法を演習する。 											
回	授 業 計 画								自主学習(授業前・授業後)			
1	オリエンテーション 教育方法・技術の意義を知り、子ども理解と学びの観点から授業を捉える。								毎回、授業の最後に次回の予定を伝えるので、予習をしてくる。課題が出た場合は必ず定められた日までに提出する。			
2	授業の様式 教えるという行為の意味から2つの授業の様式を理解する。											
3	授業の歴史 欧米の教育思想と授業様式の変遷から教育方法学の歴史を把握する。											
4	学びの創造 行動主義と認知主義、活動主義の理論を知り、学びを協同的・社会的活動として理解を深める。											
5	協同的な学び 学びを対話的実践として捉え、協同としての学びの重要性を認識する。											
6	保育者の役割 就学前の子どもが自発的に学ぶために必要な保育者の位置と援助について理解する。											
7	授業とメディア 教育メディアの変遷から教育工学とその手法を理解する。											
8	視聴覚教材の歴史 就学前の子どもにとって、ふさわしい教育メディア(視聴覚教材)とは何かを視聴覚教育の歴史から把握する。											
9	情報機器の活用と課題 情報機器の種類と課題 情報機器を視聴覚教材として捉え、活用例を通じて活用技法を習得する。											
10	情報機器の活用と課題 視聴覚教材の活用 情報機器を視聴覚教材として捉え、活用例を通じて活用技法を習得する。											
11	授業と教師 教師の身体表現、ことばが果たす役割から、教師自身の技量・技法を認識する。											
12	教材の作成と実践 プレゼンテーションソフト等を利用した具体的な教材作成に取り組む。											
13	教材の作成と実践 同上											
14	教材の作成と実践 同上											
15	教材の作成と実践 同上											
テキスト	資料・課題は進捗状況を見ながら、毎時間提示する。											
参考書・資料等	講義中に案内する。											
評価方法	定期試験50%、授業の課題の提出内容50%により評価する。 試験は定期試験期間内に実施する											
履修上の注意等	毎時のノート、配布資料を整理し、理解に努めること。分からないことがあったら、遠慮せず質問してもらいたい。											

科目番号	2203		単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	笹森 雅子	
科目名	教育方法・技術										
課程	卒業必修			栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト	
				保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター			
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 自身の学校生活と関連させながら、授業と学びの営みを理解する。子どもたちが主体的に参加する授業の要素を配慮しながら、指導計画を立案する。教育の情報化に伴い、その活用方法と課題を記述する。</p> <p>テーマ 学習者を意識した教育方法の工夫～メディアを利用した授業(教育活動)</p>										
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様式、歴史とともに変貌する学校教育の実情を理解する。 ・教授活動を一つのモデルとして捉え、授業のデザイン・評価について理解する。 ・子どもが意欲的に参加する授業にメディアが果たす役割を学ぶ。 ・具体的にパーソナルコンピュータを利用してスライド教材を作成し、学習を適切かつ効果的に成立させる方法を演習する。 										
回	授 業 計 画									自主学习(授業前・授業後)	
1	オリエンテーション 教育方法・技術の意義を知り、子ども理解と学びの観点から授業を捉える。									毎回、授業の最後に次回の予定を伝えるので、予習をしてくる。課題が出た場合は必ず定められた日までに提出する。	
2	授業の様式 教えるという行為の意味から2つの授業の様式を理解する。										
3	授業の歴史 欧米の教育思想と授業様式の変遷から教育方法学の歴史を把握する。										
4	学びの創造 行動主義と認知主義、活動主義の理論を知り、学びを協同的・社会的活動として理解を深める。										
5	協同的な学び 学びを対話的実践として捉え、協同としての学びの重要性を認識する。										
6	保育者の役割 就学前の子どもが自発的に学ぶために必要な保育者の位置と援助について理解する。										
7	授業とメディア 教育メディアの変遷から教育工学とその手法を理解する。										
8	視聴覚教材の歴史 就学前の子どもにとって、ふさわしい教育メディア(視聴覚教材)とは何かを視聴覚教育の歴史から把握する。										
9	情報機器の活用と課題 情報機器の種類と課題 情報機器を視聴覚教材として捉え、活用例を通じて活用技法を習得する。										
10	情報機器の活用と課題 視聴覚教材の活用 情報機器を視聴覚教材として捉え、活用例を通じて活用技法を習得する。										
11	授業と教師 教師の身体表現、ことばが果たす役割から、教師自身の技量・技法を認識する。										
12	教材の作成と実践 プレゼンテーションソフト等を利用した具体的な教材作成に取り組む。										
13	教材の作成と実践 同上										
14	教材の作成と実践 同上										
15	教材の作成と実践 同上										
テキスト	資料・課題は進捗状況を見ながら、毎時間提示する。										
参考書・資料等	講義中に案内する。										
評価方法	定期試験50%、授業の課題の提出内容50%により評価する。 試験は定期試験期間内に実施する										
履修上の注意等	毎時のノート、配布資料を整理し、理解に努めること。分からないことがあったら、遠慮せず質問してもらいたい。										

科目番号	2210	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年 A班後期 B班前期	担当	久保治美
科目名	相談援助								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療秘書		フードサイ エンティスト
			保育士		幼稚園 教諭		ベビー シッター		
到達目標 及びテーマ	<p>到達目標 保育者に必要な相談援助の基礎的知識の概要について理解する。 相談援助の方法と技術について理解する。</p> <p>テーマ 保育者に必要な相談援助の基礎的な知識を理解し、技術を習得する。</p>								
授業の概要	<p>相談援助の理論・方法・技術を主に講義により学ぶ、さらに小グループでの事例検討、グループワーク等を通して、話し合い、発表し、保育における相談援助について、考察を深める。</p>								
回	授 業 計 画							自主学习（授業前・授業後）	
1	オリエンテーション 保育者と相談援助							授業後：授業の要旨を短くまとめ、次回発表する。	
2	相談援助の理論・意義・機能について							授業前：配布資料を読む。 授業後：授業内容を確認し理解を深める。	
3	相談援助の原則							授業前：バイスティックの7原則について調べる。 授業後：授業内容を確認し理解を深める。	
4	相談援助の対象と過程							授業前：配布資料を読む。 授業後：授業の要旨を短くまとめ、次回発表する。	
5	関係機関との協働・専門職との連携							授業前：児童相談所について調べる。 授業後：授業内容を確認し理解を深める。	
6	相談援助者になるために(1) 自己覚知							授業前：配布資料を読む。 授業後：授業で指示した内容をふりかえり、理解を深める。	
7	相談援助者になるために(2) 他者理解							授業前：配布資料を読む。 授業後：ワークについてふりかえり、理解を深める。	
8	コミュニケーションについて							授業前：コミュニケーションについて調べる。授業後：授業内容を確認し理解を深める。	
9	コミュニケーションの理解							授業前：配布資料を読む。 授業後：ワークについてふりかえり、理解を深める。	
10	相談援助における記録							授業前：ワークブックについて調べる。 授業後：授業内容を確認し理解を深める。	
11	事例検討(1) 児童虐待への対応事例							授業前：これは手札の内容を復習する。 授業後：事例検討をふりかえりまとめる。	
12	事例検討(2) 障害のある子どもと保護者への支援							授業前：これは手札の内容を復習する。 授業後：事例検討をふりかえりまとめる。	
13	事例検討(3) 保護者とのトラブルの事例							授業前：これは手札の内容を復習する。 授業後：事例検討をふりかえりまとめる。	
14	事例検討(4) ロールプレイ							授業前：これまで学んだ内容を復習する。 授業後：ロールプレイを理解する。	
15	保育者と相談援助 ふいかえりとまとめ							授業前：これまで学んだ内容を復習する。 授業後：保育士としての相談援助について総括する。	
テキスト	特に使用しない。必要に応じて授業中に資料を配布する。								
参考書・資料等	積極的に図書館などを利用するよう望む。必要に応じて授業中に提示する。								
評価方法	定期試験60% ミレポート20% 授業中におけるグループワークでの発表や参加度20%。 試験は定期試験期間内に実施する。								
履修上の注意等	問題意識を持ち、授業内での話し合いに積極的に参加すること。自分の意見を明確に持ちつつ、他者の意見も尊重すること。								

平成30年度

科目番号	2214	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	佐々木典彰		
科目名	保育の心理学(2)								フードサイ エンティスト		
課程	卒業必修		栄養士		栄養 教諭		医療				
			保育士		幼稚園 教諭		ベビー シッター				
到達目標 及びテーマ	<p>到達目標 オリジナルの研究テーマを設定し、それについて研究方法とともに述べるができる。</p> <p>テーマ 心理学を応用した保育の技術等を探る。</p>										
授業の概要	<p>保育士としての価値観や保育現場での工夫・配慮について、研究例、実験、グループワーク、教室外活動などを通して模索する。 自主学習は、授業後、次回小テストのための復習を行い、必要に応じて、質問や意見を授業HPに投稿する。</p>										
回	授 業 計 画							自主学習(授業後)			
1	親の養育態度と子どもの性格との関連性(グループワーク)							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
2	親の養育態度と子どもの性格との関連性(発表)							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
3	乳児の感情の読み取り方							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
4	子どもへの共感(映像)							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
5	ベテラン保育者と実習生の行動の違い							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
6	保育者のストレス、バーンアウト							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
7	保育者の感情労働							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
8	子どもの想像力(絵本の絵に着目して)							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
9	子どもの想像力(絵本の物語に着目して)							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
10	子どもの想像力(絵本の読み聞かせ方に着目して)							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
11	子どもの想像力を高める(玩具に着目して)							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
12	非認知能力とは							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
13	五感への刺激を重視した活動							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
14	理想の保育者像							・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿			
15	振り返りとまとめ										
テキスト	毎回プリント配布										
参考書・資料等	随時紹介										
評価方法	小テスト(42%)およびレポート課題(58%)の合計点(100点満点)を最終成績とする。										
履修上の注意等	小テストは、欠席・遅刻した場合、原則受けられない。 (特別の理由がある場合は相談すること)										

平成3年度

科目番号	2218	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	松宮ゆり
科目名	子どもの保健(3)								
課程	卒業必修		栄養士 保育士		栄養教諭 幼稚園教諭		医療秘書 ベビーシッター		フードサイエンティスト
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 子どもの疾病とその予防及び救急時の適切な対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。</p> <p>テーマ 子ども個人や集団の健康問題発生を最小限度に抑え、また問題発生時に対処できるよう演習により体得する。</p>								
授業の概要	<p>グル-ブワ-クで演習を行う 保健活動の計画及び評価、子どもの保健と環境について理解し、子どもの疾病と適切な対応、事故防止及び健康安全管理の対応と技術を身につけ、心とからだの健康問題と地域保健活動について学ぶ。</p>								
回	授 業 計 画						自主学習 (授業前・授業後)		
1	第1章 子どもの保育と保健・養護 子どもと家族の健康・福祉専門職・福祉システム						養護の意味と専門職者の共通理念を考える		
2	第2章 子どもの成長発達 生理機能の発達 体温・脈拍・呼吸の測定・測定方法と部位の確認と記録のしかた						子どもの生理的機能を調べる		
3	子どもの成長発達 子どもの成長発達の評価・発達支援の基本 身長・体重・胸囲・頭囲測定と記録のしかた						成長発達の評価方法を理解する		
4	第3章 子どもの日常生活の養護 生活環境・栄養と食事・睡眠、休息 運動、遊び、鍛錬・歯の磨き方						歯磨き指導のポイントを知る		
5	子どもの日常生活の養護 排泄・身体の清潔・衣生活 沐浴の仕方						沐浴の手順を事前に把握する		
6	第4章 健康状態の把握と支援 健康観察 一般的な症状に対する看護・冷電法(氷嚢、氷枕)の作り方						冷電法の作り方と当て方を知る		
7	健康状態の把握と支援 特別な配慮を必要とする子どもの理解 発達障害児の支援						発達障害支援を考え理解		
8	第5章 感染の予防 感染とは・保育所、幼稚園等における感染症の予防対策 手洗いの仕方・うがいのさせ方・(「保健だより」の作成について)						うがいの方法 「ほけんだより」要項を確認		
9	感染の予防 使い捨てエプロンの作り方・嘔吐物の処理						嘔吐物処理の手順を把握する 保健だより作成にとりかかる		
10	第6章 事故防止と安全 乳幼児の救命手当・応急手当 A/B班合同集中救急法:ゲスト(弘前市消防署)						A・B班合同で準備		
11	事故防止と安全 乳幼児の心肺蘇生法 A/B班合同集中救急法:ゲスト(弘前市消防署)						↑ 運動着に名札を付けて臨む 飲料水とタオルを準備持参 ↓ 応急処置の方法を身につける		
12	第7章 集団保育における健康管理・保育所、園等における健康管理の意義・目的 健康管理の実際・健康で安全な環境整備						健康診断項目、手順、乳児睡眠中のチェックリストについて理解		
13	第8章 集団保育における健康教育 保育所、幼稚園等における健康教育の目的 健康教育の実際・基本的な生活習慣						健康教育の教材について調べる 各自「ほけんだより」を完成		
14	集団保育における健康教育 家庭における子育て支援としての健康教育 子育て支援としての「ほけんだより」・評価						保健だよりの提出		
15	第9章 保育士等をめざす学生としての自己管理・生活習慣の振り返りの実際 保育現場における保育士等の健康問題						各自の生活習慣を振り返る		
テキスト	「子どもの保健・実習 すこやかな育ちをサポートするために 第2版」、 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子[編著]、同文書院								
参考書・資料等	子どもの保健 - 理論と実際 - 適宜資料等を回覧又は配付します。								
評価方法	定期試験70%、演習活動20%、確認レポ-ト10%による総合評価。試験は定期試験期間内に実施する。								
履修上の注意等	演習時は運動着にエプロン着用、名札を付け服装等を整える。演習後、確認プリントで理解を深める。								

科目番号	2219		単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	安田智子		
科目名	子どもの食と栄養											
課程	卒業必修			栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト		
				保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター				
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 子どもの発育・発達と健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養について学び、食事の重要性を理解する。</p> <p>テーマ 保育現場では子どもの心身の状態や発達過程を踏まえながら、子どもの食にかかわっていくため、正しい栄養知識をつけるとともに、各自の食生活の見直しを行い、適切な食生活を営む実践力を培う。</p>											
授業の概要	<p>食事と栄養に関する基本的知識と小児期の栄養的特徴、食生活の果たす役割を学ぶ。また、調理実習を取り入れ、基本的な調理と発達段階に応じた食事づくりを行う。</p>											
回	授 業 計 画								自主学習（授業前・授業後）			
1	ガイダンス 【演習】 学生自身の食生活の見直しを行う。(体組成計・食事バランスガイド)								ストッキングを脱ぎ、体組成計測定を行う			
2	第1章 子どもの健康と食生活								第1章を読んでくる			
3	第2章 栄養・食に関する基本的知識 1～5								第2章 1～5を読んでくる			
4	第2章 栄養・食に関する基本的知識 6～9								第2章6～9を読んでくる			
5	第2章 栄養・食に関する基本的知識 10～12								第2章 10～12を読んでくる			
6	第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活 1～4								第3章 1～4を読んでくる			
7	第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活 5～7								第3章 5～7を読んでくる			
8	第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活 調理室の使用注意事項・食中毒 【調理実習】 調乳方法(人工ミルクの種類と調乳の仕方・冷凍母乳の解凍の仕方)								調乳方法・種類・調乳に際しての注意事項、冷凍母乳の解凍の仕方についてレポート提出			
9	第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活 【調理実習】 離乳食づくりベビーフードとの比較											
10	第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活 【調理実習】 離乳食づくりベビーフードとの比較								手作り離乳食づくりの方法、各ステージの特徴他レポート提出			
11	第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活 【調理実習】 幼児期の間食(アレルギー対応食)								幼児期の間食について、間食に要するエネルギー量及び必要栄養素等レポート提出			
12	第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活 【調理実習】 幼児期の弁当								幼児期の手作り弁当について、弁当箱の容量、エネルギー量、作る上でのポイント			
13	第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活 【調理実習】 学童期の給食											
14	第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活 【調理実習】 学童期の給食								学校給食について			
15	まとめ								試験範囲について、調理室の清掃			
テキスト	子どもの食と栄養(改訂第2版): 中山書店											
参考書・資料等	子どもの食と栄養: 萌文書林、新版子どもの食生活: ななみ書房											
評価方法	筆記試験80%、ノート・レポート点10%、実習グループ点10%として評価する。 試験は定期試験期間内に実施する											
履修上の注意等	調理実習時は白バラシューズ、割烹着、三角巾、タオル、名札を持参し、2階第二調理実習室で行う。											

科目番号	2219	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	安田智子		
科目名	子どもの食と栄養								フードサイ エンティスト		
課程	卒業必修		栄養士		栄養 教諭		医療				
			保育士		幼稚園 教諭		ベビー シッター				
到達目標 及びテーマ	<p>到達目標 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を知り、保育における食育の意義・目的を理解し、保育の現場で実践できる力をつける。</p> <p>テーマ 保育現場では子どもの心身の状態や発達過程を踏まえながら、子どもの食にかかわっていくため、正しい栄養知識をつけるとともに、各自の食生活の見直しを行い、適切な食生活を営む実践力を培う</p>										
授業の概要	<p>食事と栄養に関する基本的な知識と小児期の栄養的特徴、食生活の果たす役割を学び、調理実習において発達段階に応じた食事作りをする。また、栄養食育媒体を用いた栄養教育実践を班ごとに行う。</p>										
回	授 業 計 画							自主学习（授業前・授業後）			
1	第4章 食育の基本と実践										
2	第4章 食育の基本と実践 【演習】栄養教育発表 媒体作成準備										
3	第4章 食育の基本と実践 【演習】栄養教育発表 練習										
4	第4章 食育の基本と実践 【演習】栄養教育発表本番							ロールプレイルームにて各班10分の発表を行い、各自評価を行う			
5	第4章 食育の基本と実践 5学校給食の現状										
6	第5章 児童福祉施設や家庭における食と栄養										
7	第6章 食の安全										
8	第7章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1食物アレルギー 【演習】エビペンの使い方							アレルギー表示のあるお菓子屋加工品のパッケージを持ってくる。 エビペンの使用方法を習得する。			
9	第7章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 2～9 【演習】ORSを作って飲んでみよう										
10	第7章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 10 【演習】障害児(摂食障害)への飲み込みやすい食事作りの工夫										
11	行事食を伝える 【調理実習】 クリスマス(ブッシュドノエル・チキンローフ・人参のポタージュ・紅茶)										
12	行事食を伝える 【調理実習】 クリスマス(ブッシュドノエル・チキンローフ・人参のポタージュ・紅茶)										
13	郷土料理を伝える 【調理実習】 津軽の郷土料理(ごまご飯・けの汁・しとぎ餅・人参の子和え・番茶)										
14	郷土料理を伝える 【調理実習】 津軽の郷土料理(ごまご飯・けの汁・しとぎ餅・人参の子和え・番茶)										
15	まとめ							かっぱう着・三角巾・シューズ・タオルを持参。第二調理室で行う。			
テキスト	子どもの食と栄養(改訂 第2版):中山書店										
参考書・資料等	子どもの食と栄養:萌文書林、新版子どもの食生活:ななみ書房										
評価方法	筆記試験80%、ノート・レポート点10%、実習グループ点10%として評価する。 試験は敵試験期間内に実施する。										
履修上の注意等	調理実習時は白バラシューズ、かっぱう着、三角巾、タオル、名札を持参し、2階第二調理実習室で行う。										

平成30年度

科目番号	2220	単位	2	授業形態	講義	開講時期	2年後期	担当	工藤のぶ
科目名	家庭支援論								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 家庭の意義について検討し、家庭の現状と課題を理解する。さらに保育所に入所する家庭に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援の意義を理解し、保育者に求められる子育て家庭への支援のあり方を学ぶ。</p> <p>テーマ 家庭支援のため、保育者に求められる自覚と役割</p>								
授業の概要	保育士は、保護者への子育ての問題や課題に対しての支援と、地域の子育て家庭への支援が必要とされている。授業では、子育て家庭の歴史と現状の理解、子育て家庭への支援の必要性、子育て家庭への支援体制、子育て家庭への支援の方法(あり方)、子育て家庭支援の実践事例等を通して学ぶ。そして、今後の、子育て家庭支援の課題と展望を考える。								
回	授 業 計 画							自主学习(授業前・授業後)	
1	ガイダンス(授業の目標・テーマ・概要と授業計画について)								
2	子ども・家庭・家族・子育ての基本的考え方 子育て家庭の歴史、子育て観の移り変わり、公的支援の歴史							授業前、1章を一読する 授業後、学習のまとめをする	
3	子ども・家庭・家族・子育ての基本的考え方 家族・家庭の現状(地域社会の変化、子育て家庭のニーズ、男女共同参画社会の推進、ワーク・ライフ・バランス)							授業前、2章を一読する 授業後、学習のまとめをする	
4	子ども・家庭・家族・子育ての基本的考え方 子どもと家族・家庭(家族・家庭とは)							授業前、3章を一読する(関連ページ) 授業後、学習のまとめをする	
5	子ども・家庭・家族・子育ての基本的考え方 子どもと家族・家庭(子どもに対する家族の役割とは)							授業前、3章を一読する(関連ページ) 授業後、学習のまとめをする	
6	子育て家庭支援の必要性 子育て家庭を取り巻く社会背景、子育て家庭への支援の必要、子育て家庭支援の推進状況							授業前、4章を一読する 授業後、学習のまとめをする	
7	子育て家庭の支援体制-子育て支援の法的根拠・支援施策・次世代育成支援施策・支援制度と関係機関							授業前、5～7章を一読する 授業後、学習のまとめをする	
8	子育て家庭の支援体制 自治体の取り組みと子育て支援サービスについて(グループごとにまとめる)(グ)							授業前、担当内容を調べる 授業後、まとめる	
9	子育て家庭の支援体制 自治体の取り組みと子育て支援サービスについて(グループごとにまとめる)(グ)							授業前・後、グループで話し合う	
10	子育て家庭の支援体制 自治体の取り組みと子育て支援サービスについて(グループごとに発表)(グ)							授業前後、グループで話し合う 授業後、発表内容のまとめをする	
11	子育て家庭の支援体制 自治体の取り組みと子育て支援サービスについて(グループごとに発表)(グ)							授業前、グループで話し合う 授業後、発表内容のまとめをする	
12	子育て家庭支援の方法・やり方 子育て家庭への支援の特徴、支援のプロセスと危機介入、関係機関との連携							授業前、8章を一読する 授業後、学習のまとめをする	
13	子育て家庭の支援の方法 自己修復力のある家庭への支援(幼稚園・保育所・地域の保育現場(認定こども園・病(後)児保育・児童館)							授業前、9章を一読する 授業後、学習のまとめをする	
14	子育て家庭の支援の方法 特別な対応を要する家庭への支援、危機的状態にある家庭への支援 実践事例を通して							授業前、10～11章を一読する 授業後、課題をする	
15	今後の子育て家庭支援の課題と展望								
テキスト	編著 木村志保 津田尚子『学び、考え、実践力をつける家庭支援論』[第3版] 保育出版社								
参考書・資料等	上記教科書の内容及び関連資料を使用する。								
評価方法	課題の提出(30%) 授業内活動(40%) 授業内での小テスト(30%)								
履修上の注意等	社会に広く目を向け、家庭支援を身近なこととして捉えて受講すること。								

平成3年度

科目番号	2222	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	松宮ゆり
科目名	乳児保育(2)								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療秘書		フードサイエニティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 乳児保育の歴史の変遷を知り、保育の専門性について理解する。乳児へのかかわり方学びマザリーズの効果を知る。複数担任制の特徴を理解し、「保育所保育指針」における乳児保育のポイントを知る。</p> <p>テーマ 子どもたちの健やかな未来のために、乳児保育の大切さを認識する。</p>								
授業の概要	<p>乳児保育の歴史について学び、乳児の育つ環境の大切さ、乳児保育の果たす役割を知る。乳児のこたばの発達成長と運動機能の発達、遊びと睡眠、生活のリズムの重要性を学ぶ。更に、乳児の発達保障、保護者の支援、地域社会の子育て支援、これからの社会における乳児保育のあり方を学ぶ。</p>								
回	授 業 計 画						自主学習（授業前・授業後）		
1	第1章 乳児保育はなぜ必要か - 社会的背景から考える						3歳児神話について考える		
2	第2章 乳児保育の成り立ちを知る - 歴史と現状を理解する マザリーズの効果について - 「マザリーズの理論と実践」						乳児保育の現状 マザリーズの効果を知る		
3	第3章 「子と・子育て支援制度」-乳児保育に関わる制度・乳児院、認定子ども園とは						乳児保育が行われている施設 児童福祉施設に関する基準		
4	第4章 知っておきたい法律のいろいろ-児童福祉法など・ワークシート 使用						児童福祉施設とは 児童福祉法第1条・第18条の4		
5	第5章 『保育所保育指針』とは-乳児の発達過程をとらえる						『保育所保育指針』の目的 指針の内容を確認		
6	第6章 『保育所保育指針』における乳児保育のポイント の内容 保育				(ワークシート ~ 使用)		乳児保育で扱う年齢 0・1・2歳児の発達過程を知る		
7	第7章 『保育所保育指針』における乳児保育のポイント 別の「内容」養護						ワ-クシ-ト ~ を確認 0・1・2歳児の保育の配慮事項		
8	第8章 人生の基礎としての乳児期-ポルトマンの考え方に学ぶ						生理的早産の意味を考える 保育の配慮事項を知る		
9	第9章 乳児のこころの発達-身近な人との絆を育む過程						人見知り・愛着とは何か 人見知りと愛着について確認		
10	第10章 乳児の言葉の発達-思いを伝え合う手段を得る過程・人と関わる楽しさ「おもちゃ」						赤ちゃんの喃語とは		
11	第11章 乳児のからだ-からだの発育と運動機能の発達DVD使用・乳児の睡眠について						乳児の原始反射と運動機能 乳児の睡眠の重要性を考える		
12	第12章 乳児保育における複数担任制-保育者同士の連携のあり方						『家庭的保育事業』とは 複数担任の利点と欠点を知る		
13	第13章 保育所で過ごす1日の流れ-年齢別デイリ-プログラム・乳児保育担当保育者のお話						保育所とは 保育所での乳児の1日を知る		
14	第14章 保護者との連携を考える-乳児をとりまく協力関係を目ざして						聞き上手な保育者とは 保護者との信頼関係とは		
15	第15章 発達の遅れとむき合う-保護者を支える						発達障害とは 発達障害について理解		
テキスト	『はじめて学ぶ乳児保育』、志村聡子著、同文書院 『マザリーズの理論と実践』、内山伊知郎監修、北大路書房								
参考書・資料等	適宜参考資料回覧、「子どもの保健、実習 すこやかな育ちをサポートするために」 第2版 同文書院								
評価方法	定期記試験(80%)・確認プリント(20%)を総合評価。試験は定期試験期間内に実施する。								
履修上の注意等	確認プリントに記入しながら理解を深める。現代の育児や新聞の関連記事等にも関心を払う。								

科目番号	2223		単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	熊谷ヤス子		
科目名	障害児保育(1)											
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト			
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター					
到達目標及びテーマ	到達目標 障害児に対する理念や障害の種類や特性を理解している。 保育現場でできる配慮や環境の工夫などを理解している。 テーマ 障害を持った子どもの保育											
授業の概要	障害のとらえ方や障害に対する基礎的な知識を学びます。障害の種類や特性を理解し援助について学びます。映像教材を使って事例に触れながら実践的に学びます。											
回	授 業 計 画								自主学習（授業前・授業後）			
1	第1部 障害児保育を支える理念 第1章 障害の捉え方と障害児保育の歴史								テキストの各章を読んでおくこと			
2	第2章 障害児保育の基本								テキストの各章を読んでおくこと			
3	第2部 障害の理解と保育における発達の支援 第3章 肢体不自由児、視覚障害児、聴覚障害児の理解と支援								テキストの各章を読んでおくこと			
4	第4章 知的障害児の理解と支援								テキストの各章を読んでおくこと			
5	第5章 発達障害児の理解と支援								テキストの各章を読んでおくこと			
6	第3部 障害児保育の実際 第6章 障害児保育を支える記録・評価								テキストの各章を読んでおくこと			
7	第7章 子ども一人ひとりの発達をうながす生活と遊びの環境								テキストの各章を読んでおくこと			
8	第8章 子ども同士のかかわりあいと育ちあい								テキストの各章を読んでおくこと			
9	第9章 職員間の協力								テキストの各章を読んでおくこと			
10	第4部 家庭や関係機関との連携 第10章 保護者や家庭に対する理解と支援の方法								テキストの各章を読んでおくこと			
11	第11章 地域の専門機関などとの連携や子ども一人ひとりの支援計画の作成								テキストの各章を読んでおくこと			
12	第12章 小学校などとの連携								テキストの各章を読んでおくこと			
13	第5部 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 第13章 保育・医療における現状と課題								テキストの各章を読んでおくこと			
14	第14章 福祉・教育における現状と課題								テキストの各章を読んでおくこと			
15	第15章 支援の広がりにつながり								テキストの各章を読んでおくこと			
テキスト	障害児保育 ...子どもともに成長する保育者を目指して... 萌文書林 監修 藤永保 著者:阿部五月 大熊光穂 小泉左江子 田中理規子 村田カズ											
参考書・資料等	・映像教材 ・障害児保育 中山書店 監修:小橋明子 編著:小橋拓真 著:小山内あかね / 竹野内ゆかり											
評価方法	筆記試験70% レポート20% 受講態度0% 試験は定期試験内に実施する											
履修上の注意等	障害幼児支援に関する情報に関心を払いながら、理解を深めてほしい。											

科目番号	2224		単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	熊谷ヤス子		
科目名	障害児保育(2)											
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト			
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター					
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 学生一人ひとりが障害を持った子どもたちの保育に関して理解を深め、幼稚園教諭・保育士としての資質能力を高め、保育現場での実践力を確かなものとする。</p> <p>テーマ 障害を持った子どもたちの、豊かな生活を実現するための、保育を実践できる保育者を目指して。</p>											
授業の概要	障害児の保育における発達の援助、障害児保育の実際、保護者や家族の支援、関係機関の連携、就学等について学びます。											
回	授 業 計 画								自主学習（授業前・授業後）			
1	第 部 障害児保育を支える理念 第1章 障害児保育とは								テキストの各章を読んでおくこと			
2	第2章 障害児保育の基本								テキストの各章を読んでおくこと			
3	第 部 障害の理解と保育における発達の援助 第3章 障害の理解と保育1								テキストの各章を読んでおくこと			
4	第4章 障害の理解と保育2								テキストの各章を読んでおくこと			
5	第5章 発達に気になる子どもの理解と保育								テキストの各章を読んでおくこと			
6	第6章 障害の理解と保育3								テキストの各章を読んでおくこと			
7	第 部 障害児保育の実際 第7章 子どもの理解に基づく計画の作成と記録・評価								テキストの各章を読んでおくこと			
8	第8章 個々の発達をうながす生活やあそびの環境								テキストの各章を読んでおくこと			
9	第9章 他者とのかかわりと育ちあい								テキストの各章を読んでおくこと			
10	第10章 職員間の協力関係								テキストの各章を読んでおくこと			
11	第 部 家庭および関係機関との連携 第11章 家庭や関係機関との連携								テキストの各章を読んでおくこと			
12	第12章 障害のある子どもの早期発見と支援								テキストの各章を読んでおくこと			
13	第13章 障害のある子どもの就学に向けての支援								テキストの各章を読んでおくこと			
14	第 部 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 第14章 障害のある子どもの発達を支える関連資源の現状と課題								テキストの各章を読んでおくこと			
15	第15章 支援の場の広がりにつながり								テキストの各章を読んでおくこと			
テキスト	障害児保育 ...子どもともに成長する保育者を目指して... 萌文書林 監修 藤永保 著者:阿部五月 大熊光穂 小泉左江子 田中理規子 村田カズ											
参考書・資料等	・映像教材 ・実践に生かす障害児保育 萌文書林 編著:前田泰弘 著者:立元真・中井靖・小笠原明子											
評価方法	筆記試験70% レポート20% 受講態度0% 試験は定期試験内に実施する											
履修上の注意等	障害幼児支援に関する情報に関心を払いながら、理解を深めてほしい。											

平成30年度

科目番号	2225	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	佐藤優輝		
科目名	社会的養護内容										
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエニティスト		
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター				
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 社会的養護下で生活する子どもたちの最善の利益を守るための知識・技術を身につける。 被措置児童虐待はもちろん、不適切な関わりについて事例をもとに学生同士で議論を深める。</p> <p>テーマ 子どもの権利擁護、不適切な関わり防止、対応が困難な児童への関わり</p>										
授業の概要	<p>対応が困難な子どもたちの最善の利益を守るには、倫理観だけでは不十分であり、知識・技術に加え、自己覚知が必要となる。事例をもとに学生同士が意見を出し合うことで、生き立ちや、認知の多様に触れ、多角的な視点で事例を捉えたとともに、自らの対応を顧みることの重要性を理解できるよう演習中心に授業を展開する。</p>										
回	授 業 計 画							自主学習（授業前・授業後）			
1	子どもの理解と権利擁護							テキストを一読しておくこと			
2	社会的養護における保育者の倫理と専門性							テキストを一読しておくこと			
3	施設養護の特性と実践(児童養護施設、児童心理治療施設)							テキストを一読しておくこと			
4	施設養護の特性と実践(乳児院、母子生活支援施設)							テキストを一読しておくこと			
5	家庭養護の特性と実践(里親、里親ファミリーホーム)							テキストを一読しておくこと			
6	虐待児への支援							テキストを一読しておくこと			
7	社会的養護におけるソーシャルワーク							テキストを一読しておくこと			
8	社会的養護におけるファミリーソーシャルワーク							テキストを一読しておくこと			
9	社会的養護における治療的養育							テキストを一読しておくこと			
10	事例検討分析							テキストを一読しておくこと			
11	事例検討分析							テキストを一読しておくこと			
12	自立支援とアフターケア							テキストを一読しておくこと			
13	地域との連携							テキストを一読しておくこと			
14	社会的養護関係施設の地域分散化、小規模化、高機能化							テキストを一読しておくこと			
15	社会的養護の展望、新しい社会的養育ビジョン							テキストを一読しておくこと			
テキスト	社会的養護 吉田真理 萌文書林										
参考書・資料等											
評価方法	受講姿勢50%、課題50%										
履修上の注意等	グループで話し合う機会が多いので積極的に参加してほしい。										

平成30年度

科目番号	2226		単位	2	授業形態	講義	開講時期	2年後期	担当	江莉川淳子		
科目名	在宅保育											
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト			
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター					
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 わが国における乳幼児保育の変遷と家庭訪問保育の意義を理解し、家庭訪問保育者の果たす社会的役割を自覚する。</p> <p>テーマ 保育全体の構造を学び、バランスのとれた保育内容が子どもの健やかな成長に繋がることを理解し、子どものためのよりよい指導方法を考える。</p>											
授業の概要	履修済みである「乳児保育」・「子どもの保健」等を復習しながら、在宅保育に特化した専門性を学ぶ。											
回	授 業 計 画								自主学习（授業前・授業後）			
1	オリエンテーション 家庭訪問保育とは家庭訪問保育者としての心得 保育マインド 15P 居宅訪問型保育の概要 18～27P								1～ 教科書を一読し質問を考えておくこと			
2	家庭訪問保育を行うために必要な基礎的知識 乳幼児の生活と遊び DVD「子どもの健康に対する基本的な考え方」 28～37P DVD「子どもの健康に対する基本的な考え方」								教科書を一読し質問を考えておくこと			
3	家庭訪問保育を行うために必要な基礎的知識 乳幼児の発達と心理 38～52P								教科書を一読し質問を考えておくこと			
4	家庭訪問保育を行うために必要な基礎的知識 乳幼児の栄養と食事 53～64P								教科書を一読し質問を考えておくこと			
5	家庭訪問保育を行うために必要な基礎的知識 小児保健 65～91P								教科書を一読し質問を考えておくこと			
6	居宅型訪問保育の実際 居宅訪問型保育の保育内容 92～104P								教科書を一読し質問を考えておくこと			
7	居宅型訪問保育の実際 居宅訪問型保育の環境整備 105～114P								教科書を一読し質問を考えておくこと			
8	居宅型訪問保育の実際 居宅訪問型保育の運営 安全確保とリスクマネジメント 115～132P								教科書を一読し質問を考えておくこと			
9	居宅型訪問保育の実際 居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項 133～143P								教科書を一読し質問を考えておくこと			
10	居宅型訪問保育の実際 居宅訪問型保育における保護者対応 144～156P 子ども虐待 157～168P DVD「少子社会と健やかに子どもを産み育てる環境作り」								教科書を一読し質問を考えておくこと			
11	居宅型訪問保育の実際 特別に配慮を要する子どもへの対応 心肺蘇生 169～183P DVD「救急法」								教科書を一読し質問を考えておくこと			
12	実践演習 保育技術(お世話編) 184～207P DVD「体調が悪いときの配慮点と保育の実際」								教科書を一読し質問を考えておくこと			
13	実践演習 保育技術(遊び編) 208～218P DVD「在宅保育に役立つ遊び」 定期試験について								教科書を一読し質問を考えておくこと			
14	一般家庭訪問保育の実際 さまざまな家庭訪問保育 産後ケア 229～241P 定期試験について								教科書を一読し質問を考えておくこと			
15	まとめ 練習問題の答え合わせ 定期試験向けの質問と解説								教科書を一読し質問を考えておくこと			
テキスト	家庭訪問保育の理論と実際」公益社団法人全国保育サービス協会監修 中央法規 「ベビーシッター資格認定試験過去問題集第14回～17回」公益社団法人全国保育サービス協会											
参考書・資料等	毎回の講義内容に必要な補助資料はその都度、配布する。											
評価方法	定期試験(80%)とレポート課題(20%)の総合評価とする。 試験は定期試験期間内に実施する											
履修上の注意等	認定ベビーシッター資格取得のための科目であることを意識して受講すること。											

平成30年度

科目番号	2228	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	小林由美子 福士亜友子		
科目名	音楽(2)										
課程	卒業必修		栄養士		栄養 教諭		医療		フードサイ エンティスト		
			保育士		幼稚園 教諭		ベビー シッター				
到達目標 及びテーマ	<p>到達目標 音楽表現の基礎となる知識と技能を習得する</p> <p>テーマ 保育の現場で活用できる「幼児の歌」の弾き歌いができるようになる(目標25曲) すでにピアノ学習歴のある人は、弾き歌いのレパートリーを数多く作る</p>										
授業の概要	各自の進度に応じた個人指導により、担当教師と共に課題をマスターする										
回	授 業 計 画							自主学習(授業前・授業後)			
1	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
2	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
3	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
4	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
5	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
6	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
7	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
8	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
9	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
10	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
11	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
12	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
13	前期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく			
14	前期試験曲の復習をする。							よく復習し、試験に備える			
15	前期試験曲の暗譜を確認する。							よく復習し、試験に備える			
テキスト	「弾き歌いー簡易楽譜集」(小林・福士編集) 幼児のための音楽教育(教育芸術社)										
参考書・資料等											
評価方法	期末に演奏形式で弾く試験をし、日頃の受講態度や弾き歌いの進捗状況も合わせて、指導教員6人で総合評価をする。										
履修上の注意等	受講したことを理解し、次の授業日までに課題を完成するよう努力する。難易度が増してきているので、1年次以上に時間をかけて練習するようにする。										

科目番号	2228	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	小林由美子 福士亜友子
科目名	音楽(2)								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 音楽表現の基礎となる知識と技能を習得する</p> <p>テーマ 保育の現場で活用できる「幼児の歌」の弾き歌いができるようになる(目標25曲) すでにピアノ学習歴のある人は、弾き歌いのレパートリーを数多く作る</p>								
授業の概要	各自の進度に応じた個人指導により、担当教師と共に課題をマスターする								
回	授 業 計 画							自主学习(授業前・授業後)	
1	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
2	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
3	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
4	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
5	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
6	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
7	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
8	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
9	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
10	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
11	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
12	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
13	後期25曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと)							よく復習し、次の課題を練習しておく	
14	後期試験曲の復習をする。							よく復習し、試験に備える	
15	後期試験曲の暗譜を確認する。							よく復習し、試験に備える	
テキスト	「弾き歌いー簡易楽譜集」(小林・福士編集) 幼児のための音楽教育(教育芸術社)								
参考書・資料等									
評価方法	期末に演奏形式で弾く試験をし、日頃の受講態度や弾き歌いの進捗状況も合わせて、指導教員6人で総合評価をする。								
履修上の注意等	受講したことを理解し、次の授業日までに課題を完成するよう努力する。難易度が増してきているので、1年次以上に時間をかけて練習するようにする。								

科目番号	2230		単位	2	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	葛西克行		
科目名	図画工作(2)											
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト			
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター					
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 幼児の造形表現における生活環境に関する理解を深め、造形活動に適した環境作りや鑑賞活動を計画することができる。</p> <p>テーマ 意欲的な造形活動を促す環境構成に関する実践的な教材研究。</p>											
授業の概要	様々な素材を使った造形活動をもとに、グループ毎に話し合い、独自の題材を構想し、指導計画を作成する。											
回	授 業 計 画								自主学习（授業前・授業後）			
1	授業ガイダンス 造形表現の意義								事前：「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」の熟読。			
2	児童画の発達段階								事前：「児童画のロゴス」の熟読。 事後：レポート課題「児童画の発達段階のまとめ」提出。			
3	作品の見方・評価方法								事後：レポート課題「よい作品とは」提出。			
4	壁面の装飾(1) 共同制作の意義、グループ協議、課題演習								事前：ガムテープ、カッター、ボンド、絵の具、装飾に使えるものの準備。			
5	壁面の装飾(2) 課題演習											
6	壁面の装飾(3) 課題演習											
7	壁面の装飾(4) 課題演習								事後：課題作品提出。			
8	壁面の装飾(5) 個人及びグループの計画書作成								事前：壁面装飾のアイデアの熟思。			
9	壁面の装飾(6) グループ計画書の協議、試作、反省								事後：個人、グループアイデアカード提出。			
10	写真集の作成(1) 課題演習								事前：写真集のテーマの熟思。 スマホ(あるいはデジカメ)の準備。			
11	写真集の作成(2) 課題演習								事前：写真集のレイアウトの熟思。			
12	写真集の作成(3) 課題演習								事前：刺繍用針、寒冷紗、障子紙、ボンド、カッター、定規、千枚通しの準備。			
13	写真集の作成(4) 課題演習								事前：表紙用生地(あるいは紙)、障子紙、ボンド、刷毛、カッター、定規の準備。			
14	写真集の作成(5) 課題演習								事後：課題写真集の提出。			
15	写真集の作成(6) 個人計画書作成								事後：個人アイデアカード提出。			
テキスト	なし											
参考書・資料等	幼稚園教育要領解説(フレーベル館)、保育所保育指針解説(フレーベル館)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)、幼児造形の基礎(萌文書林)、児童画のロゴス(勤草書房)、共通感覚論(岩波現代文庫)、裸の王様(角川文庫・新潮文庫)											
評価方法	課題作品及びレポート(70%)、授業への取り組み状況(30%)											
履修上の注意等	履修者は授業ガイダンスを必ず履修すること。											

科目番号	2230	単位	2	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	葛西克行		
科目名	図画工作(2)								フードサイ エンティスト		
課程	卒業必修		栄養士		栄養 教諭		医療				
			保育士		幼稚園 教諭		ベビー シッター				
到達目標 及びテーマ	到達目標 幼児の造形表現における生活環境に関する理解を深め、造形活動に適した環境作りや鑑賞活動を計画することができる。 テーマ 意欲的な造形活動を促す環境構成に関する実践的な教材研究。										
授業の概要	様々な素材を使った造形活動をもとに、グループ毎に話し合い、独自の題材を構想し、指導計画を作成する。										
回	授 業 計 画							自主学習（授業前・授業後）			
1	段ボールを使った造形表現(1) 共同制作の意義、グループ協議、課題演習							事前:ガムテープ、カッター、木工ボンド、 絵の具、装飾に使えるものの準備。 事前:制作する動物、作り方の熟思。			
2	段ボールを使った造形表現(2) 課題演習										
3	段ボールを使った造形表現(3) 課題演習										
4	段ボールを使った造形表現(4) 課題演習							事後:課題作品提出。			
5	段ボールを使った造形表現(5) 個人及びグループの計画書作成							事前:布を使った造形活動のアイデア の熟思。			
6	段ボールを使った造形表現(6) グループ計画書の協議、試作、反省							事後:個人、 グループアイデアカード提出。			
7	土粘土を使った造形活動(1) 課題演習							事前:タオル、ゴミ袋の準備			
8	土粘土を使った造形活動(2) 課題演習							事後:課題作品提出。			
9	土粘土を使った造形活動(3) 個人及びグループの計画書作成							事前:布を使った造形活動のアイデア の熟思。			
10	土粘土を使った造形活動(4) グループ計画書の協議、試作、反省							事後:個人、 グループアイデアカード提出。			
11	映像メディアを使った造形表現(1) 課題演習							事前:PowerPointの基本操作の練熟。			
12	映像メディアを使った造形表現(2) 課題演習										
13	映像メディアを使った造形表現(3) 課題演習							事後:課題作品提出。			
14	映像メディアを使った造形表現(4) 個人及びグループの計画書作成							事前:コンピュータを使った造形活動 のアイデアの熟思。			
15	映像メディアを使った造形表現(5) グループ計画書の協議、試作、反省							事後:個人、 グループアイデアカード提出。			
テキスト	なし										
参考書・資料等	幼稚園教育要領解説(フレーベル館)、保育所保育指針解説(フレーベル館)、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説(フレーベル館)、幼児造形の基礎(萌文書林)										
評価方法	課題作品及びレポート(70%)、授業への取り組み状況(30%)										
履修上の注意等											

科目番号	2232	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	田中 恵
科目名	体育(2)								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 多種多様な動きを通じて身体能力・運動能力を高めながら、幼児の運動遊びの指導法を学び、指導力を身につける。</p> <p>テーマ 幼児の運動遊びの指導内容・指導法を理解する。</p>								
授業の概要	<p>体育(1)での講義内容を基礎として、運動遊びを展開するうえで必要な指導上の留意点や安全管理等について理解を深め、幼児の身体の発育・発達に即した運動遊びの内容と指導法について学習する。</p>								
回	授 業 計 画							自主学习(授業前・授業後)	
1	講義内容を把握し、幼児の運動遊びの内容や効果について学ぶ。							講義内容をノートにまとめる。	
2	リズム 天野式幼児リズムの意義や目的・ねらいについて学ぶ。							講義内容をノートにまとめる。	
3	リズム 天野式幼児リズムの意義や目的・ねらいを踏まえて実際に体験する。							天野式幼児リズムの動きを確認する。	
4	(伝承遊び)馴染みのある伝承遊びを応用させて、遊びの変化を考える。							伝承遊びを調べる。	
5	(鬼遊び)多種の鬼遊びを体験する。鬼遊びのルールに変化を加えて体験する。							鬼遊びのルールを考える。	
6	身近な素材を利用した遊び 新聞紙・ダンボールなど身近な素材を利用した遊びを体験する。							身近な素材を利用した遊びを考える。	
7	身近な素材を利用した遊び 新聞紙・ダンボールなど身近な素材を利用した遊びを体験する。							身近な素材を利用した遊びを考える。	
8	運動遊びの指導法 年齢別の運動遊びについて指導案を作成し、指導法を研究する。指導計画の立案方法を学習する。							運動遊びの活動内容を考える。	
9	運動遊びの指導法 年齢別の運動遊びについて指導案を作成し、指導法を研究する。							指導案を作成する。	
10	運動遊びの指導法 年齢別の運動遊びについて指導案を作成し、指導法を研究する。							教材の準備をする。	
11	運動遊びの指導法 グループごとに活動内容を設定し、実際の状況を想定しながら指導法について研究をする。							グループごとに模擬保育の振り返りをする。	
12	運動遊びの指導法 グループごとに活動内容を設定し、実際の状況を想定しながら指導法について研究をする。							グループごとに模擬保育の振り返りをする。	
13	運動遊びの指導法 グループごとに活動内容を設定し、実際の状況を想定しながら指導法について研究をする。							グループごとに模擬保育の振り返りをする。	
14	運動遊びの指導法 グループごとに発表した内容を振り返る。							グループごとに模擬保育の振り返りをする。	
15	これまでの学習を振り返る。(理論・実技)							講義内容をノートにまとめる。	
テキスト	『幼児の楽しい運動学習』 不味堂出版								
参考書・資料等	必要に応じて資料を配付する。								
評価方法	グループ発表の内容(50%)定期的に動きの習得状況を確認(50%)して総合的に評価する。								
履修上の注意等	講義内容はノートにまとめておくこと。								

科目番号	2232	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	田中 恵
科目名	体育(2)								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 多種多様な動きを通じて身体能力・運動能力を高めながら、幼児の運動遊びの指導法を学び、指導力を身につける。</p> <p>テーマ 幼児の運動遊びの指導内容・指導法を理解する。</p>								
授業の概要	<p>体育(1)での講義内容を基礎として、運動遊びを展開するうえで必要な指導上の留意点や安全管理等について理解を深め、幼児の身体の発育・発達に即した運動遊びの内容と指導法について学習する。</p>								
回	授 業 計 画							自主学习(授業前・授業後)	
1	大型遊具(マット・跳び箱・平均台・巧技台・鉄棒)の遊びの特徴を理解する。 リトミックの内容は毎回継続的に実施する。							講義内容をノートにまとめる。	
2	マット遊びの指導法 マットを使った遊びの特徴や効果を理解し、指導法を学習する。							講義内容をノートにまとめる。	
3	マット遊びの指導法 マットの利用方法を工夫して基本的な動きを体験する。							講義内容をノートにまとめる。	
4	跳び箱遊びの指導法 跳び箱を使った遊びの特徴や効果を理解し、指導法を学習する。							講義内容をノートにまとめる。	
5	跳び箱遊びの指導法 跳び箱の利用方法を工夫して基本的な動きを体験する。							講義内容をノートにまとめる。	
6	鉄棒遊びの指導法 鉄棒を使った遊びの特徴や効果を理解し、指導法を学習する。							講義内容をノートにまとめる。	
7	鉄棒遊びの指導法 鉄棒の利用方法を工夫して基本的な動きを体験する。							講義内容をノートにまとめる。	
8	平均台遊びの指導法 平均台を使った遊びの特徴や効果を理解し、指導法を学習する。							講義内容をノートにまとめる。	
9	平均台遊びの指導法 平均台の利用方法を工夫して基本的な動きを体験する。							講義内容をノートにまとめる。	
10	障害走の指導法 年齢に合った障害走の内容と指導上の留意点を考える。							講義内容をノートにまとめる。	
11	障害走の指導法 年齢に合った障害走の内容と指導上の留意点を考える。							講義内容をノートにまとめる。	
12	障害走の指導法 年齢に合った障害走の内容と指導上の留意点を考える。							講義内容をノートにまとめる。	
13	天野式幼児リトミックの動きを復習する。							天野式幼児リトミックの動きを確認する。	
14	天野式幼児リトミックの動きを復習する。							天野式幼児リトミックの動きを確認する。	
15	これまでの講義内容を振り返りながら、幼児に運動遊びを指導する上で重要なポイントを理解する。							講義内容をノートにまとめる。	
テキスト	『幼児の楽しい運動学習』 不味堂出版								
参考書・資料等	必要に応じて資料を配付する。								
評価方法	グループ発表の内容(50%)定期的に動きの習得状況を確認(50%)して総合的に評価する。								
履修上の注意等	講義内容はノートにまとめておくこと。								

科目番号	2233		単位	2	授業形態	講義	開講時期	2年後期	担当	福士純子	
科目名	国語科概論										
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療			フードサイエンティスト	
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター				
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 一般社会における正しい言語表現のあり方を理解し、保育者としての確で簡明な表現能力を身につける。</p> <p>テーマ 「言語を用いた伝達」 書くこと・話すこと の実践的表現の能力を高める。</p>										
授業の概要	日常生活で使用される実務的・実用的な言語の表現をベースとし、国語の基礎知識の確認と応用力を養うための実践的問題演習を行う。										
回	授 業 計 画									自主学习（授業前・授業後）	
1	受講受理(授業計画) 国語の定義、保育者と表現力、概論の授業方法と計画・内容について解説する。										
2	保育者としての国語表現(1) ~ 表現における心構え ~ 保育現場における、話すこと・聞くこと・書くこと・読むことの実践を学ぶ。										
3	保育者としての国語表現(2) ~ あいさつ・敬語 ~ 保育者として身につける基本的な生活習慣と言葉について確認する。									テキスト巻末の演習問題、配付プリント等で復習をする。	
4	保育者としての国語表現(3) ~ 保育者・子ども・保護者 ~ 対人、状況に応じた適切な表現のあり方について考える。									"	
5	保育者としての国語表現(4) ~ 正しい表記の仕方 ~ 誤字脱字のない簡明な文章表現のための正しい表記を身につける。									"	
6	国語の基礎知識(1) 表記のきまり。(現代仮名遣い、送り仮名、漢字と仮名の使い分け、数字の表記、読点の打ち方、記号類の使い方、原稿用紙の使い方。)について学ぶ。									"	
7	国語の基礎知識(2) 表記のきまり。(現代仮名遣い、送り仮名、漢字と仮名の使い分け、数字の表記、読点の打ち方、記号類の使い方、原稿用紙の使い方。)についての演習。									"	
8	国語の基礎知識(3) 書き方の工夫。(文字、漢字、話言葉と書き言葉、略語と外来語、語句の重複、文末表現、常体と敬体、接続助詞、文の長さ。)について学ぶ。									"	
9	国語の基礎知識(4) 書き方の工夫。(文字、漢字、話言葉と書き言葉、略語と外来語、語句の重複、文末表現、常体と敬体、接続助詞、文の長さ。)についての演習。									"	
10	国語の基礎知識(5) 話すこと聞くこと。(話し方の工夫・ポイント、聞くときの心構え・ポイント)の確認。									"	
11	保育者としての文章表現(1) 書く目的に応じた文の構成を学び、簡潔な文章の書き方、上達するための方法を身につける。									"	
12	保育者としての文章表現(2) 主語と述語、段落、修飾語、接続語、句読点、文末表現などの正しい使い方の確認をする。									"	
13	保育者としての文章表現(3) 履歴書・実習礼状などの手紙の書き方を演習する									履歴書・実習礼状などを実際に書いて練習し、提出をする。	
14	保育者としての文章表現(4) 保育日誌・連絡帳・園便りなどの書き方を学ぶ。										
15	小論文の書き方を学び、テーマを決めて演習する。									小論文形式で「最近の感動体験」について書き、提出する。	
テキスト	『保育者になるための国語表現』 萌文書林										
参考書・資料等	必要に応じて資料を配付する。										
評価方法	学習意欲(20%)、レポート(30%)、筆記試験(50%)等で総合的に判断する。 試験は定期試験期間内に実施する										
履修上の注意等	事前に指示された事項はきちんと調べて受講すること。提出物は日程厳守のこと。										

平成3年度

科目番号	2234	単位	2	授業形態	講義	開講時期	2年後期	担当	長尾明義
科目名	生活科概論								
課程	卒業必修		栄養士 保育士		栄養教諭 幼稚園教諭		医療秘書 ベビーシッター		フードサイエンティスト
到達目標及びテーマ	到達目標 幼児教育と小学校教育の接続の核となる生活科を理解するために、生活科の目標や九つの内容、内容の取り扱いや指導計画作成上の配慮事項などについて、テキストや関係資料を通して理解すると共に、製作や表現活動を通してテーマ 低学年の教科である生活科の全体像を理解し、幼児教育に生かそう。								
授業の概要	小学校学習指導要領解説「生活編」や現行児童用教科書をもとに生活科の目標や内容について学習する。製作単元と成長単元では、実際に「おもちゃ」や「自分アルバム」の製作を取り入れ、実感を通した生活科の理解を図る。また、幼児教育と小学校教育との円滑な接続の核となる生活科の役割や幼児教育における「芽生え」の大切さを取り上げる。								
回	授 業 計 画							自主学習（授業前・授業後）	
1	生活科の全体像をイメージ化（生活科を樹木に喩えた「生活科の木」の作成）。新学習指導要領・生活科の目標と役割（幼児教育との接続・スタートカリキュラムの充実など）。							幼児期の終わりまでに育てたい姿10	
2	生活科の目標について。具体的な活動や体験とは、生活上必要な習慣や技能とは、究極の目標である三つの自立とは等について学ぶ。ワークシートに記入。							「自立」の意味を調べておく。	
3	目標が目指す三つの資質・能力（三本柱）について。 学年目標について。							なぜ生活科の資質・能力には「基礎」か	
4	生活科の内容について（生活科の内容構成・具体的な視点・学習対象）							学習したことを「生活科の木」に記入す	
5	遊びを通した総合的な学びから自覚的な学びへ。							遊びの意義とは。	
6	生活科の内容（1）学校と生活について。その、ねらいと配慮事項について学ぶ。特に、スタートカリキュラムを重視している現行教科書を紹介し円滑な接続について考える。							生活科の内容（1）学校と生活につい	
7	生活科の内容（2）家庭と生活（3）地域と生活。その、ねらいと配慮事項について学ぶ。							家庭生活を扱う場合の留意事項を復	
8	生活科の内容（4）公共物・公共施設の利用（5）季節の変化と生活。そのねらいと配慮事項について学ぶ。小学校時代の学校から自宅までのマップに自然を想起し記述。							小学校時代の体験を想起しておく。	
9	生活科の内容（6）自然や物を使った遊び。ねらいと次時の製作について。							製作に使用する材料の準備。	
10	内容（6）に関連した小単元「おもちゃをつくってあそぼう」の製作。空き缶アーチェリーの製作。この単元における幼児との交流について紹介。							グループで遊び方の工夫。	
11	内容（7）動植物の飼育栽培（8）生活や出来事の交流。そのねらいと配慮事項について。							小学校時代の飼育・栽培を想起。	
12	内容（9）自分の成長。ねらいと配慮事項。小単元「大きくなったよ」に関連した、自分アルバムの製作について。教科書の例を提示。							家族ヘインタビュー。資料の収集。	
13	自分アルバム（20年を振り返る）の製作。自分の成長を振り返る。支えてくれた人々への感謝の気持ちとこれからもよりよく生きよう自分。							材料・用具の準備。形式に決定。	
14	自分アルバムの完成。自分の成長を振り返る。友達のをさを認め合う。							家族にもアルバムを見せる。感謝を。	
15	自分アルバムの完成。自分の成長を振り返る。友達のをさを認め合う。							子どものよさを伸ばし円滑な接続へ。	
テキスト	「小学校学習指導要領解説 生活編」(著作権所有 文部科学省 発行者 東洋館出版)								
参考書・資料等	児童用教科書に掲載されている単元や学習活動を適宜紹介する。								
評価方法	定期試験(80%)、提出物(10%)、主体的な受講態度(10%) 試験は定期試験期間内に実施する								
履修上の注意等	「自分アルバム」の製作で、幼少期～成人までを振り返る手がかりとして写真を使用するので、写真を選んだりコピーしておく。								

科目番号	2235	単位	2	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	島内智秋
科目名	保育実践演習								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 1. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。2. 課題について協働しながら現状分析、考察、検討をする力を養う。3. 問題解決の対応、判断について学びを深める。</p> <p>テーマ 自らの学びを振り返り、総合的な演習として演劇発表に取り組み、自主的な活動をする中で、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。</p>								
授業の概要	<p>現代の保育を巡る問題を考え、大切にしていきたいテーマを決めて劇・ミュージカルで演じて伝える。大テーマは「見えない大切にしたいこと」、具体的な内容はグループでの討議により決定する。目標達成に向けて、発表までの計画・脚本・衣装・舞台・作曲等のすべてを考えて進める。その中で「仲間と心を合わせて目標に向かう力」「コミュニケーション能力」「表現力」「話す力」「しなやかに表現する力」を身につけていく。</p>								
回	授 業 計 画							自主学习（授業前・授業後）	
1	イントロダクション・保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任について・保育者として大切にしたいテーマをチームで討議(役割・計画)							講義後に活動を記録する	
2	劇・ミュージカルの演目の決定から台本作りと計画書の提出(計画書をチーム内で把握)							講義後に活動を記録する	
3	グループで計画・準備をすすめ、一人一人が役割を果たし完成に向かう(台本・衣装・舞台背景・必要な曲作り等) 3～9回はグループの進度による							講義後に活動を記録する	
4	グループで計画・準備をすすめ、一人一人が役割を果たし完成に向かう(台本・衣装・舞台背景・必要な曲作り等)							講義後に活動を記録する	
5	グループで計画・準備をすすめ、一人一人が役割を果たし完成に向かう(台本・衣装・舞台背景・必要な曲作り等)							活動記録ノート1回目提出	
6	グループで計画・準備をすすめ、一人一人が役割を果たし完成に向かう(台本・衣装・舞台背景・必要な曲作り等)							講義後に活動を記録する	
7	グループで計画・準備をすすめ、一人一人が役割を果たし完成に向かう(台本・衣装・舞台背景・必要な曲作り等)							講義後に活動を記録する	
8	グループで計画・準備をすすめ、一人一人が役割を果たし完成に向かう(台本・衣装・舞台背景・必要な曲作り等)							講義後に活動を記録する	
9	1回目のリハーサル(役者等の立ち稽古中心) 改善点について話し合い、さらに発表に向けて準備や練習を行う							講義後に活動を記録する チームで話し合いをすること	
10	2回目のリハーサル 改善点について話し合い、さらに発表に向けて準備や練習を行う							講義後に活動を記録する チームで話し合いをすること	
11	3回目のリハーサル 改善点について話し合い、さらに発表に向けて準備や練習を行う							講義後に活動を記録する チームで話し合いをすること	
12	4回目のリハーサル 改善点について話し合い、さらに発表に向けて準備や練習を行う							講義後に活動を記録する チームで話し合いをすること	
13	5回目のリハーサル 改善点について話し合い、さらに発表に向けて準備や練習を行う							講義後に活動を記録する	
14	劇・ミュージカルの発表 1・2							講義後に活動を記録する	
15	劇・ミュージカルの振り返り 課題:小論文「保育実践演習を通して学んだこと」(400字詰め原稿用紙5枚程度)							活動記録ノート最終提出	
テキスト	特になし。必要な場面で資料配布をする。								
参考書・資料等	『子どもと創る演劇』太宰久夫編 玉川大学出版部 『劇遊び 脚本と演出』チャイルド本社 他								
評価方法	グループでの計画・準備への参加状況、発表の完成度・チーム内の相乗効果による成長度、提出された活動記録ノートの内容(70%)、小論文(30%)の総合評価をする。								
履修上の注意等	保育職をイメージしてグループワークを進め、発表内容をより良くするために協働していくこと。 ノート(A4サイズ)を準備し、講義終了後毎回、活動内容を記入していくこと。(中間と最終講義後に活動ノート提出)								

平成30年度

科目番号	2236	単位	2	授業形態	講義	開講時期	2年後期	担当	西 敏郎
科目名	教育体験								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 教職の意義、教員に求められている役割、資質能力、職務内容等の基礎的な学校教育全般について理解し、教員に求められている本質について考察する。</p> <p>テーマ 教職の意義、教員の職務等について学ぶことで教職への意欲を高め、教育者にふさわしい心構えを育む。</p>								
授業の概要	<p>教育者に必要とされる教員の職務の特質や意義についての知識を習得する。さらに現代の教育課題について考察し、今日の学校の役割や教員に求められている資質能力について考えを深めていく。</p>								
回	授 業 計 画							自主学习（授業前・授業後）	
1	教職の意義 公教育の目的と教員の意義について								
2	目指す教師像 自分の目指す教師像について								
3	教員の特性 教員の特性(他の職業との比較を通して)について								
4	教職観 教職観の歴史的変遷から、今日の教員に求められている役割について								
5	教員の服務 教員の身分と服務義務について								
6	教育制度 教員という職業のあり方について、近代の日本の教育制度の変遷に沿って検討する								
7	教員の職務 教員の職務(学校の組織、運営、学級経営等)について								
8	教員の職務 教員の職務(生徒指導、公務分掌等)について								
9	現代の学校教育 教員研修の意義と重要性について								
10	幼児、児童の発達課題 子どもの習慣、技能および人格形成上等の発達課題について								
11	最近の幼児、児童の傾向 近年の子どもの傾向について								
12	現代の教育課題 現代の教育課題について考察する								
13	現代の教育課題 現代の教育課題について考察し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する								
14	現代の教育課題 現代の教育課題から、学校・家庭・地域社会の役割と連携の重要性について理解する								
15	教員に求められる資質・能力 今後、教員に求められる資質能力について考察し、これまでの講義を踏まえて目指す教師像について考えをまとめる								
テキスト	使用しない。講義中に適宜資料を配布する。								
参考書・資料等	「チーム学校に求められる教師の役割・職務とは何か」晃洋書房 「教職の意義と教員の職務」三省堂								
評価方法	試験(90%)・レポート課題(10%) 試験は定期試験期間内に実施する								
履修上の注意等	学校教育関連のニュース・新聞記事等に目を向けること。								

平成30年度

科目番号	2238	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	江莉川淳子		
科目名	保育相談支援								フードサイ エンティスト		
課程	卒業必修		栄養士		栄養 教諭		医療				
			保育士		幼稚園 教諭		ベビー シッター				
到達目標 及びテーマ	<p>到達目標 保育相談支援の意義と原則について理解する。 ・保護者支援の基本を理解する。</p> <p>テーマ ・保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 ・保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。</p>										
授業の概要	<p>保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際を知り、その対応の意義や基本をよく理解できるように、講義や演習の中から学びとっていく。</p>										
回	授 業 計 画							自主学习（授業前・授業後）			
1	保育相談支援とは 保育相談支援の基本							教科書を一読しておくこと			
2	保育相談支援の方法 保育者が行う保育相談支援の特徴							教科書を一読しておくこと			
3	保護者との関係づくり 保護者の養育力の向上を目指したかかわり							教科書を一読しておくこと			
4	保育相談支援の基本 信頼関係の形成・プライバシーの保護（資料）										
5	保育の環境構成を活かした支援 保育相談支援における保育環境構成の意義と課題							教科書を一読しておくこと			
6	地域の資源の活用と関係諸機関との連携							教科書を一読しておくこと			
7	地域子育て支援における保育相談支援の実際							教科書を一読しておくこと			
8	保護者の養育力向上を目指した支援の実際							教科書を一読しておくこと			
9	保護者同士の関係を改善するための支援の実際							教科書を一読しておくこと			
10	苦情対応から始まる支援の実際							教科書を一読しておくこと			
11	障害のある子どもをもつ保護者への支援の実際							教科書を一読しておくこと			
12	要保護児童の家庭に対する支援の実際							教科書を一読しておくこと			
13	乳児院における保育相談支援の実際							教科書を一読しておくこと			
14	母子生活支援施設における保育相談支援の実際							教科書を一読しておくこと			
15	保育者に求められる保育相談支援 1年目A子さんの保護者対応とその後（資料）										
テキスト	『実践・保育相談支援』青木紀久代編著 みらい										
参考書・資料等	『保育相談支援』大嶋恭二・金子恵美編著 建帛社 『演習 保育相談支援』小林育子著 萌文書林 『子どもを愛せない母親の心がわかる本』大日向雅美著 講談社										
評価方法	期末テスト(60%)・提出レポート(20%)・受講態度・演習への取り組み状況(20%)の総合評価 試験は定期試験期間内に実施する										
履修上の注意等	保育者になったことをイメージして受講すること。										

科目番号	2239	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	田中 恵
科目名	健康(1)								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 領域「健康」のねらい・内容を理解しながら保育者としての役割を考え、援助方法や指導する上で必要な知識や技術を身に付ける。</p> <p>テーマ 領域「健康」のねらい・内容を踏まえ、乳幼児の心身の発達に即した健康な身体づくりや生活習慣を身に付けるための援助、安全指導のあり方について理解を深める。</p>								
授業の概要	<p>幼児期が生涯にわたる健康の基礎ができる重要な時期であることから、領域「健康」のねらい・内容・指導の基本を理解し、心身の健康に関する内容、運動的活動に関する内容、健康な生活習慣に関する内容を具体的に学習する。</p>								
回	授 業 計 画							自主学习（授業前・授業後）	
1	領域「健康」の講義内容を把握する。『健康とはどういうことなのか』について考える。							講義内容をノートにまとめる。	
2	幼児期の発達を踏まえて、乳幼児の健康の特徴を学ぶ。							幼児期の発達の特徴を振り返る。	
3	領域「健康」のねらい・内容を学習する。							講義内容をノートにまとめる。	
4	乳幼児期の身体の発達について学ぶ。							乳幼児期の身体の発達について振り返る。	
5	乳幼児期の体力・運動能力の発達 運動技能の発達を学ぶ。							講義内容をノートにまとめる。	
6	乳幼児期の体力・運動能力の発達 各年齢における体力・運動能力について学習し、運動遊びと関連づけて学習する。							講義内容をノートにまとめる。	
7	乳幼児期の体力・運動能力の発達 各年齢における体力・運動能力について学習し、運動遊びと関連づけて学習する。							講義内容をノートにまとめる。	
8	乳幼児期の精神状態 知覚・認知の発達について学ぶ。							講義内容をノートにまとめる。	
9	乳幼児期の精神状態 社会性・パーソナリティの発達について学ぶ。							講義内容をノートにまとめる。	
10	基本的な生活習慣の形成と過程 食事についての援助方法や指導のあり方を学ぶ。							講義内容をノートにまとめる。	
11	基本的な生活習慣の形成と過程 睡眠・排泄についての援助方法や指導のあり方を学ぶ。							講義内容をノートにまとめる。	
12	基本的な生活習慣の形成と過程 衣服の着脱・清潔に関することについての援助方法や指導のあり方を学ぶ。							講義内容をノートにまとめる。	
13	乳幼児に多い不慮の事故等を例にあげ、乳幼児期の安全能力の発達について学ぶ。							講義内容をノートにまとめる。	
14	交通安全指導・災害に備えての避難訓練等、安全指導のあり方を学ぶ。							講義内容をノートにまとめる。	
15	これまでの講義内容を振り返る。							講義内容をノートにまとめる。	
テキスト	なし								
参考書・資料等	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 毎講義時に資料を配付する。								
評価方法	試験(90%)・レポート課題(10%) 試験は定期試験期間内に実施する								
履修上の注意等	日頃から、子どもに関するニュース・新聞記事に関心をもつこと。								

科目番号	2240		単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	田中 恵		
科目名	健康(2)											
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト			
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター					
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 心身の健康に関する領域であることを踏まえ、乳幼児の発達に即した援助方法や安全指導のあり方を考慮しながら保育者に必要な知識・技術を身に付ける。</p> <p>テーマ 乳幼児の心身の発達に即した健康な身体づくりや生活習慣を身に付けるための援助・安全指導のあり方について理解を深める。</p>											
授業の概要	健康(1)での学習を基に、運動に関する指導、健康な生活に関する指導、安全な生活や態度に関する指導など保育現場での状況と照らし合わせて内容を深め、乳幼児の健康について学習する。											
回	授 業 計 画								自主学習(授業前・授業後)			
1	健康(1)での学習を振り返りながら、健康(2)の講義内容を把握する。								講義内容をノートにまとめる。			
2	基本的な生活習慣について(食事)実習体験を振り返り、保育現場の実態を踏まえて、指導上配慮する点等についてグループ別に意見交換をしながら援助方法を理解する。								学外実習での経験を振り返りながら自分なりにまとめる。(グループ発表に備える。)			
3	基本的な生活習慣について(午睡・排泄)実習体験を振り返り、保育現場の実態を踏まえて、指導上配慮する点等についてグループ別に意見交換をしながら援助方法を理解する。								学外実習での経験を振り返りながら自分なりにまとめる。(グループ発表に備える。)			
4	基本的な生活習慣について(衣服の着脱・清潔に関する事)実習体験を振り返り、保育現場の実態を踏まえて、指導上配慮する点等についてグループ別に意見交換をしながら援助方法を理解する。								学外実習での経験を振り返りながら自分なりにまとめる。(グループ発表に備える。)			
5	日常保育における保健活動として、子どもの健康状態の把握について理解する。								講義内容をノートにまとめる。			
6	事故発生時の救急処置について理解を深める。								救急処置について振り返る。			
7	園外保育の意義や園外保育で育つ心身の健康について理解する。								講義内容をノートにまとめる。			
8	幼児期にふさわしい運動会のあり方を理解する。								講義内容をノートにまとめる。			
9	室内遊びと戸外遊びがもたらす身体・心の健康について理解を深める。								講義内容をノートにまとめる。			
10	固定遊具を使った遊びの特質と援助の要点について理解する。								講義内容をノートにまとめる。			
11	かけっこの特質と援助の要点について理解する。(土踏まずの形成について)								講義内容をノートにまとめる。			
12	鬼遊びの特質と援助の要点について理解する。								講義内容をノートにまとめる。			
13	幼児の運動指導のポイントを理解する。								講義内容をノートにまとめる。			
14	乳幼児の健康指導における保育者の役割を認識する。								講義内容をノートにまとめる。			
15	これまでの講義内容をふりかえる。(領域「健康」のねらい・内容・内容の取扱いを再確認する)								講義内容をノートにまとめる。			
テキスト	なし											
参考書・資料等	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 毎講義時に資料を配付する。											
評価方法	試験(90%)レポート課題(10%) 試験は定期試験期間内に実施する											
履修上の注意等	日頃から、子どもに関するニュース・新聞記事に関心をもつこと。											

平成3年度

科目番号	2241	単位	1	授業形態	講義	開講時期	2年前期	担当	吉田裕美子
科目名	人間関係								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療秘書		フードサイ エンティスト
			保育士		幼稚園 教諭		ベビー シッター		
到達目標 及びテーマ	到達目標 実践場面における具体的な例を取り上げ、人間関係における内容や問題点を明らかにしていくことで、保育者としての 資質を高めていく。 テーマ 発達に沿って保育者、家族、友だちとの間に築かれていく人間関係の様子を捉え、保育者としての関わり方を考え学 んでいく。								
授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の基本理念を踏まえた上で、子どもの人間関係をどのように捉えるのか、指導 はどのようにあるべきかについて、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人との関わり」に関する具体的な事例を考察 する。								
回	授 業 計 画							自主学習（授業前・授業後）	
1	保育の基本と保育内容「人間関係」 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本							提出課題：自己紹介カード	
2	乳幼児期における人との関わり の発達 「0・1・2歳児を中心に」							提出課題：レポート「語りかけ育児にこ	
3	乳幼児期における人との関わり の発達 「3・4・5歳児を中心に」								
4	遊びの中で育つ人との関わり 「保育における遊びの大切さ」							遊びの意義と重要性 「遊びと仲間関係」	
5	遊びの中で育つ人との関わり 「相手の気持ちを考える」							- けんかやいざこざから生まれるもの - 「協同性の育ち」	
6	人との関わりを育てる保育の実践 「人と関わる力が育っていくプロセスとは」							グループ発表：事例について自分の 考えをまとめる	
7	人との関わりを育てる保育の実践 「保育の中で気になる子どもの姿」							「人と関われない、関わらない子どもたち」	
8	人との関わりが難しい子どもへの支援 「園生活に馴染めない子の育ち」							「悩む親を支える」	
9	保育における個の育ちと集団の育ちについて 「集団の中での役割と責任・道徳性の芽生え」								
10	人間関係の育ちを育む環境 「子どもの育ちを考える保育者同士の関係とは」							- 保育者同士の人間関係 -	
11	人間関係の育ちを育む環境 「園と家庭が子どもを育てる」							- 保護者と保育者の人間関係 - 「保護者同士の関係を作る」	
12	領域の相互の関連性と保育展開 「3歳児の指導計画と実践」							- 指導計画の意義・作成・実践例 -	
13	領域の相互の関連性と保育展開 「4歳児の指導計画と実践」							- 指導計画の意義・作成・実践例 -	
14	領域の相互の関連性と保育展開 「5歳児の指導計画と実践」							- 指導計画の意義・作成・実践例 -	
15	まとめ 「演習の振り返りとその先の課題」							「よい人間関係をつくるために」	
テキスト	小田 豊典野 正義 編著『人間関係』								
参考書・資料等	無藤 隆岩立 京子 編著『事例で学ぶ人間関係』（明文書林） 森上 史朗 小林 紀子 渡辺 英則 編著『人間関係』								
評価方法	定期試験（70%）、授業内活動（20%）、提出物（10%） 試験は定期試験期間中に実施する。								
履修上の注意等	実習場面にも応用できるように、具体的な事例をもとに考え、まとめる工夫をしてほしい。								

科目番号	2242		単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	佐藤睦子	
科目名	環境										
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療			フードサイエンティスト	
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター				
到達目標及びテーマ	到達目標 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における保育の内容「環境」について理解を深める。 テーマ 「環境を通して行う保育とは」をテーマに、保育者自身が子どもにとって最も影響力のある人的環境であることを自覚した上で、子ども理解に努め、望ましい環境を作っていく実践力を身につけられるよう、演習を通して学ぶ。										
授業の概要	子どもは自ら環境に働きかけるとともに、環境から働きかけられ影響を受けながら成長する。乳幼児期の子どものために必要な環境とはどのようなものなのか、保育者として子どもたちの育ちを支える環境を通しての援助について演習を通して学習する。										
回	授 業 計 画									自主学习（授業前・授業後）	
1	オリエンテーション 授業の概要について									資料プリントを整理し、ノートの作成をする	
2	領域「環境」の位置づけ 保育所保育指針及び幼稚園教育要領における「環境」の捉え方									授業後、ノートをまとめる	
3	子どもと環境のかかわり 身近な環境の捉え方(自然とのかかわりについての事例研究)									"	
4	子どもと環境のかかわり 身近な環境の捉え方(自然を感じる保育の指導案作成)									演習課題の提出	
5	子どもと環境のかかわり 身近な環境の捉え方(生き物とのかかわりについての事例研究)									授業後、ノートをまとめる	
6	子どもと環境のかかわり 身近な環境の捉え方(生き物とかわる保育の指導案作成)									演習課題の提出	
7	子どもと環境のかかわり 保育室の役割・屋外環境(DVD視聴)									授業後、ノートをまとめる	
8	子どもと環境のかかわり 遊具、設備の安全上の配慮									"	
9	子どもと環境のかかわり 保育者の役割と環境構成									"	
10	好奇心、興味、関心を育てる環境 文字・数量概念への関心と保育環境									"	
11	好奇心、興味、関心を育てる環境 図形・標識と保育環境									"	
12	好奇心、興味、関心を育てる環境 文字・図形・数量・標識と保育環境(子どもへの興味関心を引き出す遊びの考案・教材づくり)									演習課題の提出	
13	地域にかかわる活動 園内外の行事・地域の人々との交流									授業後、ノートをまとめる	
14	環境から見た幼児教育の今日的課題									授業後、ノートをまとめる	
15	まとめ									演習課題の提出	
テキスト	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領										
参考書・資料等	必要に応じて資料プリントを配付する。										
評価方法	定期試験は行わないため、レポート課題を40%、及びその他の提出物(指導案や教材など)を60%とし評価します。										
履修上の注意等	自然環境や生活環境から季節を感じたり、その変化に気づき、楽しむことを日常の生活において意識してほしい。自身が子どもにとって影響力のある人的環境となることを学生のうちから意識し、普段の身だしなみや言葉遣い、表情や所作に表してほしい。										

平成30年度

科目番号	2243	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	島内智秋
科目名	言葉(1)								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭 幼稚園教諭		医療		フードサイ エンティスト
			保育士				ベビー シッター		
到達目標 及びテーマ	<p>到達目標 「幼稚園教育要領」の保育内容「言葉」の領域について理解する。</p> <p>テーマ 保育内容「言葉」の領域に関する理論(言葉の意義、発達など)を理解する。 絵本・紙芝居などの保育教材の扱い方を理解し、それを実践しようとする。</p>								
授業の概要	<p>幼稚園教育要領の領域「言葉」について、乳幼児期の言語的発達をふまえ、保育における子どもの言葉によるコミュニケーション、絵本などの文化財との関わり等の具体的な言葉に関わる保育内容の指導法を実践的に理解する。</p>								
回	授 業 計 画							自主学习(授業前・授業後)	
1	幼稚園教育の特質、幼稚園教育要領における5領域、領域「言葉」とは							P1～P32を一読し質問を考えてくる	
2	領域「言葉」の歴史の変遷 領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱い							保育要領と幼稚園教育要領を一読	
3	乳幼児期の発達と領域「言葉」							P33～P50を一読し質問を考えてくる	
4	子どもの言葉の発達過程(1) - 言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋 -							P51～P70を一読し質問を考えてくる	
5	子どもの言葉の発達過程(2) - 書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉 正しく美しい平仮名を書く演習							書き方用鉛筆を準備、P121～P150を一読	
6	子どもの気持ちの理解と信頼関係の形成のための保育実践を考える (言葉にならない言葉や上手く伝わらないもどかさの読み取り)							P85-P120を一読し質問を考えてくる	
7	自分の気持ちや考えを表現すること、いろいろな表現の理解 劇や物語を知る							P71-P84を一読し質問を考えてくる	
8	他者の言葉を親しみをもって注意してきくことに繋がる保育実践 ごっこの世界から劇遊びへ(形容詞と名詞を用いての即興劇をグループで行う)							P151 - P161を一読し質問を考えてくる	
9	生活に必要な言葉を使うこと(挨拶など)、身につけていくための遊び演習と保育実践							P162-170を一読し質問を考えてくる	
10	遊びの中で言葉による表現をすること、言葉の表現の演習・歌や触れ合いを楽しむ遊びの演習							『保育内容言葉』P75～P98資料を一読	
11	言葉による伝え合いをすること、伝え合える遊びの演習							『保育内容言葉』P99～P129資料を一読	
12	日常生活のなかで文字に親しみ関心を持つこと・お便り帳を書いてみよう							『保育者の伝える力』資料を一読	
13	言葉に対する感覚を豊かにする実践・想像やことばのリズムを楽しむ							『保育内容言葉』P153～P170事前資料を一読	
14	絵本・紙芝居の読み聞かせ 絵とことばの豊かな世界を楽しむ							『保育内容言葉』P114～P129事前資料を一読	
15	現代の子どもを取り巻く環境と「言葉」、特別な配慮が必要な幼児への指導を踏まえた「言葉」 に関わる保育実践(どのような伝え方が考えられるのか)							P171～P185を一読し質問を考えてくる	
テキスト	幼稚園教育要領解説書・『事例で学ぶ保育内容 領域言葉無藤隆監修・高濱裕子編者代表 萌文書林								
参考書・資料等	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』 民秋言著 萌文書林 『事例で学ぶ保育内容<領域>言葉』 無藤隆・高濱裕子 編 萌文書林								
評価方法	定期試験60%・課題レポート40% 試験は定期試験期間内に実施する								
履修上の注意等	振り返りカードを活用し、講義内容を復習すること。日頃から乳幼児の言葉環境に興味を持つこと。								

平成30年度

科目番号	2244	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	佐々木典彰
科目名	言葉(2)								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 子どもの発達における言葉の重要性を理解し、保育現場での言葉の工夫例や配慮点を具体的に述べることができる。</p> <p>テーマ 子どもにとって望ましい言葉を探る。</p>								
授業の概要	<p>保育者の言葉に関する研究等さまざまな資料をもとに、実践的な言葉がけについて学ぶ。自主学習は、授業後、次回小テストのための復習を行い、必要に応じて、質問や意見を授業HPに投稿する。</p>								
回	授 業 計 画						自主学習(授業後)		
1	「言葉」とは						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
2	子どもの言葉の特徴						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
3	子どもに伝わる言葉と伝わらない言葉						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
4	子どもにプラスの言葉とマイナスの言葉						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
5	非言語的コミュニケーション						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
6	子どもの言葉を引き出す言葉がけ(インリアルアプローチ)						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
7	ベテラン保育者ならではの言葉がけ						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
8	子どもの反応を引き出す言葉がけ(マザリーズ)						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
9	言葉がけのひと工夫(オノマトペ)						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
10	この場面であなたならどのような言葉がけをする？						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
11	連絡帳・通信での言葉(情報機器の活用を含む)						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
12	保護者支援のための言葉(情報機器の活用を含む)						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
13	保育者間の良好な人間関係のための言葉						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
14	親子間の言葉の現状と課題						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
15	振り返りとまとめ								
テキスト	毎回プリント配布								
参考書・資料等	幼稚園教育要領(平成29年告示 文部科学省)								
評価方法	毎回の小テスト(42%)およびレポート課題(58%)の合計点(100点満点)とする。								
履修上の注意等	小テストは、欠席・遅刻した場合、原則受けられない。 (特別の理由がある場合は相談すること)								

平成30年度

科目番号	2247		単位	(1)	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	小林由美子		
科目名	表現(2)・A											
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト			
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター					
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 子どもたちにしっかり聴こえる声が出るようになる。季節の歌、年齢ごとの歌遊びを数多く身につける。</p> <p>テーマ 音楽を用いて子どもたちの感受性、集中力、協調性を伸ばせる保育士、幼稚園教諭になれるよう1年間で多くのことを身につける。</p>											
授業の概要	<p>発声練習では、声量を増すために、効果音パートとメロディの二部合唱の音楽劇を用い、効果音があってもメロディがしっかり聴こえるように毎回少しずつ進んでいく。各月の歌は教科書には載っていないが、現場でよく歌われている歌を中心に多くの季節の歌を現場で指導できるように身につける。歌遊びは、手遊び、動く遊びを各年齢ごと、項目ごとに数多く身につける。</p>											
回	授 業 計 画								自主学習（授業前・授業後）			
1	表現の授業について		音楽劇を使った発声練習	4月の歌	0歳児の歌遊び	学んだ内容をプリントで確認すること 季節の歌の伴奏ができるように準備する						
2	音楽劇を使った発声練習		4月の歌	0歳児の歌遊び	"							
3	音楽劇を使った発声練習		4月の歌	0歳児の歌遊び	"							
4	音楽劇を使った発声練習		5月の歌	1歳児の歌遊び	"							
5	音楽劇を使った発声練習		5月の歌	1歳児の歌遊び	"							
6	音楽劇を使った発声練習		5月の歌	2歳児の歌遊び	"							
7	音楽劇を使った発声練習		6月の歌	2歳児の歌遊び	"							
8	音楽劇を使った発声練習		6月の歌	3歳児の歌遊び	"							
9	音楽劇を使った発声練習		6月の歌	3歳児の歌遊び	"							
10	音楽劇を使った発声練習		6月の歌	3歳児の歌遊び	"							
11	音楽劇を使った発声練習		夏の歌	3歳児の歌遊び	"							
12	音楽劇を使った発声練習		夏の歌	3歳児の歌遊び	"							
13	音楽劇を使った発声練習		夏の歌	3歳児の歌遊び	"							
14	音楽劇を使った発声練習		夏の歌	3歳児の歌遊び	"							
15	音楽劇を使った発声練習		3歳児の歌遊びの小テスト	"								
テキスト	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領											
参考書・資料等	毎回手書きのプリントを配布する											
評価方法	小テスト(80%)、学習態度(20%)											
履修上の注意等	専用のファイルを準備してほしい (A4 4ポケット)											

平成30年度

科目番号	2247	単位	(1)	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	小林由美子
科目名	表現(2)・A								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 前期に引き続き、季節ごとの歌を数多く覚え、簡易伴奏で伴奏できるようにする。リズム・合奏も年齢ごとに無理なくできるものを数多く身に着ける。</p> <p>テーマ 常に子どものことを考えて指導できる保育者になれるようしっかり身につけよう。</p>								
授業の概要	<p>季節の歌は、前期と同じ教科書には載っていないが、現場でよく歌われている歌を中心に多くの季節の歌を身につける。4、5歳向けの歌遊びは、前期より長く複雑な手遊びもしっかり覚えよう。リズムはフラフープ、打楽器などを使って、子どもたちが音に反応し楽しんで動ける方法を知り、自分でも発展しているいる考えられるようになってほしい。楽器の使い方は、本来の持ち方のほか音楽発表会などでの華やかな持ち方や鳴らし方も知り、合奏も行う</p>								
回	授 業 計 画							自主学習（授業前・授業後）	
1	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、ク	楽器の使い方・合奏(ハンドベル、トーンチャイム)、リズム					学んだ内容をプリントで確認すること 季節の歌の伴奏ができるように準備する		
2	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方・合奏(大太鼓、鈴、クラベス)、リズム					"		
3	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方・合奏(木琴、鉄琴、ギロ)、合奏					"		
4	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、リズム								"
5	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方・合奏(和太鼓)					"		
6	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方・合奏(トライアングル)					"		
7	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方・合奏(ビブラフォン)					"		
8	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方・合奏(カホン、ウインドチャイム)					"		
9	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方・合奏(ハンドベル、デスクベル)					"		
10	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方・合奏(ハンドベル、トーンチャイム)					"		
11	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、ト)	楽器の使い方・合奏(鈴、マラカス、タンバリン、カスタネット)					"		
12	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方・合奏(アコーディオン)					"		
13	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方・合奏(シンバル・小太鼓)					"		
14	4、5歳児向け歌遊び、	楽器の使い方(カスタネット)、合奏(小テスト)					"		
15	季節の歌、4、5歳児向け歌遊び小テスト								"
テキスト	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領								
参考書・資料等	毎回手書きのプリントを配布する								
評価方法	小テスト(80%)、学習態度(20%)								
履修上の注意等	専用のファイルを準備してほしい (A4 4ポケット)								

平成3年度

科目番号	2248		単位	(2)	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	神 美香		
科目名	表現(2)・B											
課程	卒業必修			栄養士		栄養教諭		医療秘書		フードサイ エンティスト		
				保育士		幼稚園 教諭		ベビー シッター				
到達目標 及びテーマ	<p>到達目標 幼児造形教育における知識と技術を習得し、想像力を育てる指導方法を研究する。</p> <p>テーマ 幼児の心に寄り添い、興味と楽しさを引き出し、のびのびとした創造力を育てる。</p>											
授業の概要	紙芝居、絵本、おもちゃなど幼児造形教育の教材を制作し、実践方法を研究する。											
回	授 業 計 画							自主学習(授業前・授業後)				
1	季節や遊びを描く	クレヨン、水彩絵の具、アクリル絵の具それぞれの特性を知り、幾つか選択し、その特性を活かしてグループで表現する。					クレヨン、水彩絵の具、アクリル絵の具					
2		ループで制作					上に同じ					
3		テンシル技法を知り表現					アクリル絵の具一式、カッターナイフ					
4		テンシル技法による制作					上に同じ					
5	ポップアップカードの制作	:飛び出す仕掛けを工夫してバースデーカードを制作					のり、はさみ、カッター					
6	廃材利用の動くおもちゃの制作	:お菓子の空き箱、トイレットペーパーの芯、牛乳パック等のおもちゃ制作					お菓子の空き箱1、トイレットペーパーの芯5、牛乳パック1、はさみ、のり、クレヨン					
7	モビールの制作	:透明なアクリル板で、涼し気に揺れるモビールを制作					はさみ、油性ペン黒、アクリル絵の具					
8	紙芝居、絵本、ペープサート、木版画から一つを選択し、教育現場で効果的な作品を制作する。	登場人物、ストーリーを考え、表現技法を決める					絵の具一式、クレパス他					
9		自制作 各					上に同じ					
10		自制作 各					上に同じ					
11		自制作 各					上に同じ					
12		自制作 各					上に同じ					
13	研究課題「幼児の共同制作」	テーマ、材料、制作の内容、工程を研究して、計画する。					はさみ、カッター、ボンド、絵の具一式					
14		画に沿って制作					上に同じ					
15		研究成果の発表					上に同じ					
テキスト	なし											
参考書・資料等	必要に応じて配布する											
評価方法	提出物70%受講態度20%レポート10%											
履修上の注意等	速やかに作業できるように、授業の前に道具を揃えておくことが望ましい。衣服が汚れる可能性もあるので、トレーニングウェア、エプロンの着用可。											

平成30年度

科目番号	2249	単位	(2)	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	工藤勝子
科目名	表現(2)・C								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭 幼稚園教諭		医療		フードサイ エンティスト
			保育士				ベビー シッター		
到達目標 及びテーマ	到達目標 着物を正しく着て、立ち居振る舞いを覚え、日本舞踊の基本を理解し、幼児に指導できるようになる事。 テーマ 伝統文化の伝承								
授業の概要	礼儀作法から入り、着物の着方、立ち居振る舞いを覚え、邦楽、文学に親しむ。								
回	授 業 計 画							自主学習 (授業前・授業後)	
1	講義・日本舞踊とは ビデオ鑑賞 幼児(男児・女子)の舞踊について 人間の四肢五体で喜怒哀楽を表現する芸術である事を理解する							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
2	実技・日本舞踊の稽古とは 正しい姿勢、歩き方、座り方、お辞儀の仕方、立ち方 礼儀作法、立ち居振る舞い、扇の基本曲“はなばたけ”稽古。以降毎回							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
3	実技・舞扇とは 着物の知識 扇子の持ち方4種、開き方2種、閉じ方2種、着物の着方、たたみ方によって日本の民族衣装であることを認識・理解する。							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
4	実技・着物の知識 帯結び一種、動きの基本曲“うさぎうさぎ”の稽古。以降毎回							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
5	実技・着物を正しく着る 着物の着方、女兒向きの曲“千代の舞扇”の稽古。足のつき、すり足、おすべり、型、拍子							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
6	実技・着物を美しく着て舞う 着物の着方、袖、袂の扱い方							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
7	実技・舞扇を正しく扱う 着物のはしよりを整える。帯結び2種、扇技法3種							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
8	実技・基本の動きの習得 着物を着る。かむろ歩き。腰をおっての稽古							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
9	実技・基本の動きの確認 着物を着る。ひざを使つての稽古							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
10	実技・間と目線 着物を着る。目線、角度、首振、重心のかけ方、肩、ひじの使い方 手・指の用語							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
11	実技・テストに向けて仕上げ 着物を着る。曲に合わせて個々に確認する。							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
12	実技テスト 着物の着方、基本曲と練習曲の評価。美しく浴衣が一人で着れて正確にたためるようになる。							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
13	実技テスト予備日 着物の着方、基本曲と練習曲の評価 袴の着付けの講習							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
14	実技 着物を着る。基本の動き、男児・女兒の違いを知る							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
15	講義・ビデオ 代表的な歌舞伎舞踊と幼児発表を鑑賞 プリント“日本舞踊のまとめ”幼児の表現に対する評価							文献や映像資料等で日本舞踊の知見を深めること	
テキスト	なし								
参考書・資料等	講義の際、資料を作成して配布する。								
評価方法	実技 50点、レポート 50点								
履修上の注意等	特になし								

科目番号	2250		単位	2	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	島内智秋		
科目名	保育内容指導法											
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト			
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター					
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 ・保育の全体構造の理解に基づいて「養護」と「教育」を総合的に捉える。 ・実習の経験をもとに話し合い、子ども理解や保育の計画や方法について理解する。</p> <p>テーマ ・保育全体の構造を学び、バランスのとれた保育内容が子どもの健やかな成長に繋がることを理解し、子どものためのよりよい指導方法を考える。</p>											
授業の概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針の保育内容をよく理解し、子どもの主体性を育む保育と保育者の関わり関係性を学ぶ。											
回	授 業 計 画								自主学習（授業前・授業後）			
1	オリエンテーション 幼稚園・保育所・認定こども園の教育・保育の基本 保育内容と保育方法を理解する								1章を事前に一読しておくこと			
2	見える援助と見えない援助・保育における観察と記録 指導方法と教育効果の関連性 乳幼児期の発達と幼稚園教育・保育の方法的特質								講義後、レポートを提出すること			
3	教育・保育の基盤となる子ども理解 発達の違いに合わせた指導方法と援助方法								2章を事前に一読しておくこと			
4	幼児期のふさわしい生活の展開 主体性を育む保育について 領域「健康」について								6章を事前に一読しておくこと			
5	環境を通しての教育 環境を通しての学び 領域「環境」について								3章を事前に一読しておくこと			
6	環境を通しての教育 環境構成の実際 遊びの展開に応じた環境の再構成								講義後、レポートを提出すること			
7	遊びを通しての指導 DVD 乳幼児期の発達と遊び 領域「人間関係」について[5歳児のヒミツ]								4章を事前に一読しておくこと			
8	遊びを通しての指導 乳幼児期の遊びの生成と展開 領域「言葉」について								講義後、レポートを提出すること			
9	遊びを通しての指導 乳幼児期の遊びに対する援助 領域「表現」について								講義後、レポートを提出すること			
10	保育における個と集団の関係								5章を事前に一読しておくこと			
11	発達の時期に応じた指導・援助のあり方								7章・8章を一読しておくこと			
12	保育の計画の実際(教育課程・長期計画・短期計画)								9章を一読しておくこと 指導案を提出する			
13	行事を生かした保育の展開								講義後、レポートを提出すること			
14	乳幼児教育・保育における家庭・地域連携のあり方 郵便帳の書き方								10章・11章を一読しておくこと			
15	保育実践を高める省察・カンファレンス 配慮を要する子どもへの保育内容								12章を一読しておくこと			
テキスト	「保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡辺英則・森上志朗 編 ミネルヴァ書房「幼稚園教育要領解説書」文部科学省(言葉(1)で使用したもの) 保育所保育指針「厚生労働省」(保育原理(1)で使用したもの)											
参考書・資料等	「幼児教育指導法 - 保育における援助の方法 - 」阿部明子・中田カヨ子編著 保育のプロセスの質 評価スケール イム・シラージ+デニス・キングストン+エドワード・メルウイッシュ 著 明石書店 ほか											
評価方法	期末テスト(60%)、指導案・レポート(40%)の総合評価 試験は定期試験期間内に実施する											
履修上の注意等	子どもにとって、より良い具体的な指導方法を考え、現場での実践へ備えること。											

平成30年度

科目番号	2251	単位	2	授業形態	講義	開講時期	2年前期	担当	佐々木典彰
科目名	成長相談								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 子どものさまざまな言動への見方・考え方を心理学に基づいて述べるができる。</p> <p>テーマ 年次で学んだ心理学の基礎を活用して、子どものさまざまな事例を分析する。</p>								
授業の概要	<p>毎回子どもの事例(プリント)に各自取り組み、その後、解説される。随時、関連するニュースや研究例にもふれる。 自主学習は、授業後、次回小テストのための復習を行い、必要に応じて、質問や意見を授業HPに投稿する。</p>								
回	授 業 計 画						自主学習(授業後)		
1	観察実習・施設実習の振り返り						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
2	年齢ごとの心理的特徴						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
3	入園初期にみられる子						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
4	行動が荒っぽい子						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
5	集団に入れない子・入らない子						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
6	子どもにとっての「男らしさ」「女らしさ」						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
7	けんかをする子						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
8	行事を嫌がる子						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
9	造形表現が苦手な子						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
10	言葉の少ない子						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
11	年度末に向けて心配が残る子						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
12	子どもにとっての生き物の生と死						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
13	気になる保護者						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
14	発達障害が疑われる子						・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿		
15	振り返りとまとめ								
テキスト	毎回プリント配布								
参考書・資料等	ラボム編集部 編 「心の保育を考えるcase 67」 学研								
評価方法	小テスト(42%)およびレポート課題(58%)の合計点(100点満点)を最終成績とする。								
履修上の注意等	小テストは、欠席・遅刻した場合、原則受けられない。 (特別の理由がある場合は相談すること)								

科目番号	2252		単位	2	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	笹森 雅子		
科目名	教職実践演習(幼)											
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト			
			保育士		幼稚園教諭		ベビシッター					
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 教員の職務についての基本的な事項を理解した上で、教育に対する使命感や情熱を持ち、教員としての資質能力を高めようとする。</p> <p>テーマ 将来教員になる上での自分の課題を自覚し、不足している知識や技術等を補い、教職生活を円滑にスタートさせるための準備をする。</p>											
授業の概要	<p>教師として求められる 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 社会性や対人関係能力に関する事項 幼児理解や学級経営等に関する事項 保育内容等の指導力に関する事項等に関して、グループ討議、ロールプレイング、模擬保育等を行いながら教員としての実践力を高めていく。</p>											
回	授 業 計 画								自主学習(授業前・授業後)			
1	教職論 これまでの講義や教育実習を振り返りながら、教員としての使命感や責任感、教育的愛情の重要性について深める。								授業後に教育実習についてのグループ反省の資料を作成する			
2	教職論 前回の実習の振り返りから、子ども理解、教員の役割を理解する。								授業後、実習の反省資料を基にグループ内で発表の練習する			
3	教職論 2年生から1年生へ教育実習体験を伝える中で、子ども理解、教員の役割、保育内容について理解を深める。								事前に実習について1年生に伝えることを整理しておく			
4	保育指導 これまでの講義や実習を振り返りながら、指導計画(年間指導計画・月案・週案・日案)の意味と作成上の留意点を確認し、グループごとに指導案を作成する。								事前に指導案、教材作成に必要な材料を準備しておく			
5	保育指導 グループごとに指導案を作成、教材研究を行い指導の展開を工夫する。								授業前後、グループごとに模擬保育の準備をする			
6	保育指導 グループで立案した指導計画をもとに模擬保育を行い(3歳児対象)、保育内容の研究を深める。								授業後、模擬保育から学んだことのレポートを提出する			
7	保育指導 グループで立案した指導計画をもとに模擬保育を行い(4歳児対象)、保育内容の研究を深める。								授業後、模擬保育から学んだことのレポートを提出する			
8	保育指導 グループで立案した指導計画をもとに模擬保育を行い(5歳児対象)、保育内容の研究を深める。								授業後、模擬保育から学んだことのレポートを提出する			
9	幼稚園運営 園務運営、教職員間の連携・協働の重要性について理解を深める。								授業後、復習を行い理解を深める			
10	幼稚園運営 学級経営、学級環境づくり、子どもへの対応について理解し、学級経営案を作成する。 ゲストスピーカー								授業後、復習を行い理解を深める			
11	幼稚園運営 家庭との連携、保護者への対応について理解を深める。								授業後、復習を行い理解を深める			
12	現代の教育課題 特別な支援を要する子どもへの対応について理解を深める。 ゲストスピーカー								授業後、復習を行い理解を深める			
13	現代の教育課題 今日的な教育課題(主に学校、家庭、地域社会との連携等)に関して、事例検討やロールプレイングを通して、個々の子どもの特性や子ども理解を深める。								授業後、事例検討したことについてのレポートを提出する			
14	現代の教育課題 今日的な教育課題(主に子ども理解等)に関して、事例検討やロールプレイングを通して、個々の子どもの特性や子ども理解を深める。								授業後、事例検討したことについてのレポートを提出する			
15	教職論 これまでの講義を踏まえて、今日教員に求められている資質能力、教員の役割等から、目指す教師像について確立する。								授業後、これまでの講義を踏まえて小論文を提出する			
テキスト	使用しない。											
参考書・資料等	<p>「幼稚園教育要領(平成29年告示)」フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」文部科学省</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)」フレーベル館</p>											
評価方法	講義中のグループ活動(10%)、レポート課題(10%)、指導案(20%)、模擬授業(20%)小論文(40%)の総合評価で行う。											
履修上の注意等	2年間の総まとめであることを自覚し、教員としての円滑なスタートができるように、向上心を持って臨むこと。											

平成30年度

科目番号	2253	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	笹森 雅子	
科目名	教育実習事前事後指導								フードサイ エンティスト	
課程	卒業必修		栄養士		栄養 教諭		医療			
			保育士		幼稚園 教諭		ベビー シッター			
到達目標 及びテーマ	<p>到達目標 教育実習の意義・目的・内容・方法について理解する。実習記録や指導案作成の意義・方法を理解し、実習時に円滑に記述することができる。実習園の概要について説明できる。</p> <p>テーマ 幼稚園の理解および幼児と保育を主眼とした観察方法と記録のしかた</p>									
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習を円滑に進めていくために、教育実習の意義・目的・内容・方法について理解する。 実習時に幼児と保育の本質理解を深めるための観察や記録の方法を具体的に学習する。 1年次の実習体験をもとに、実習に対するイメージを明確にする。 									
回	授 業 計 画								自主学习（授業前・授業後）	
1	オリエンテーション 教育実習の意義・目的・内容・方法を説明する。									
2	幼稚園とは 幼稚園教育の基本・目的・意義について復習する。									
3	幼稚園とは 同 上									
4	幼稚園とは 幼稚園のカリキュラムについて説明する。									
5	幼稚園とは 幼稚園の現状と課題について説明する。									
6	幼稚園とは 幼稚園の1日の流れ(デリープログラム)と行事について説明する。									
7	幼稚園とは 幼児の成長のために適当な環境を考え、教員の役割を認識させる。									
8	実習段階と学習目標 実習段階にしたがって、観察・参加実習の目標を認識させる。									
9	実習段階と学習目標 実習段階にしたがって、部分・全日実習の目標を認識させる。									
10	実習段階と学習目標 各実習における観察方法のポイントを把握する。									
11	記録のしかた 話し言葉と書き言葉の別を明確にし、実習記録や指導案作成にふさわしい文体表現を演習する。									
12	記録のしかた 正確に伝えるために、主語と述語をはっきりと明記し、接続詞の正しい使い方を演習する。									
13	記録のしかた 実習にふさわしい記述として、主観と客観の区別を認識させ、客観的視点で記録するよう説明する。									
14	記録のしかた 自分が作成した実習日誌や指導案を文章校正するの必要を認識させる。									
15	実習直前の具体的な準備と実習中の注意点を確認する。									
テキスト	なし									
参考書・資料等	資料を配付する。									
評価方法	授業ノートの評点により評価する。									
履修上の注意等	教育実習に向けての事前の準備であることを自覚して臨むこと。									

科目番号	2253	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年後期	担当	笹森 雅子		
科目名	教育実習事前事後指導								フードサイ エンティスト		
課程	卒業必修		栄養士		栄養 教諭 幼稚園 教諭		医療				
			保育士				ベビー シッター				
到達目標 及びテーマ	<p>到達目標 実習後のふり返りから、客観的に自己評価できる。 お互いの報告を聴き合い、各自の課題を明らかにする。 教職者としての専門性を目指していく。</p> <p>テーマ 実習後の自己発見と自己評価 お確かな進路選択</p>										
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 自分と他の学生の実習をふり返り、今後の新しい各自の課題について考察する。 保育に必要な知識や判断力を習得する。 										
回	授 業 計 画							自主学习（授業前・授業後）			
1	実習後のふり返り グループごとに自分と他の学生の実習をふり返り、実習の反省点をまとめる。										
2	実習後のふり返り グループごとに実習の反省点をまとめ、資料を作成する。							実習反省資料を作成する			
3	報告会 実習体験を1年生に伝えることを通して実習を振り返り、今後の課題を把握する。										
4	実習後の自己評価 実習園の評価と自己評価を確かめ、自分の課題を知る。										
5	実習後の自己評価 実習を振り返り、まとめる。							レポート提出			
6	幼児理解と援助 子ども理解について(事例研究)										
7	幼児理解と援助 子ども理解について(事例研究)										
8	幼児理解と援助 子ども同士のトラブル対応について(事例研究)										
9	幼児理解と援助 子どもと保育者の関係づくりについて(事例研究)										
10	幼児理解と援助 子どもと保育者の関係づくりについて(事例研究)										
11	幼児理解と援助 家庭との連携、保護者との対応について(事例研究)										
12	教育課題 教育課題(子どもの傾向から見える課題)について考察し、考えをまとめる。							レポート提出			
13	教育課題 教育課題(子ども、保育者、家庭との関係)について考察し、考えをまとめる。							レポート提出			
14	教育課題 教師のあり方について考えをまとめる。							レポート提出			
15	まとめ これまでのまとめと目指す教師像							レポート提出			
テキスト	なし。										
参考書・資料等	資料を配付する。										
評価方法	提出物の評点により評価する。										
履修上の注意等	実習後のまとめの講義であることを自覚して臨むこと。										

科目番号	2254	単位	4	授業形態	実習	開講時期	集中	担当	教職課程委員会
科目名	教育実習								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 学内で学んだ専門知識や技能を現場において総合的に実践し、子どもとのふれ合いを通して教師の職務を体験し、応用力を身につける。</p> <p>テーマ 幼児教育の内容や幼稚園の機能、教師の役割を具体的に学ぶ。</p>								
授業の概要	<p>・1年次6月の柴田幼稚園における2日間観察実習から学習の動機をつかみ、1年間の専門知識・保育技術の習得を経て本実習として実地におもむき、幼児教育の内容や幼稚園の機能、教師の役割を具体的に学ぶ。</p>								
回	授 業 計 画								自主学习（授業前・授業後）
1	<p>各幼稚園での実習]</p> <p>実習期間 平成31年9月4日(水)～9月27日(金)</p> <p>実習の内容と方法</p> <p>3週間の実習では観察・参加・指導(部分実習・全日実習)の段階目標に従って学ぶ。</p> <p>(1) 観 察：子供や保育の基礎的、全般的な状況の把握 配属クラス、園舎内、園庭の見学・観察 各クラス(年少・年中・年長)の見学・観察</p> <p>(2) 参 加：保育者の指導計画と指導方針に基づく補助的な活動への参加 日常繰り返す活動(登園・降園時の活動、給食、排泄、手洗い等)への補助 一つのまとまりを持った活動(紙芝居、集団遊び等)への参加</p> <p>(3) 指 導：実習生の指導計画と準備に基づく主体的な保育活動の実践 指導計画の作成と保育活動の展開に対する自己評価 教材・遊具・用具等、環境構成に関する準備</p>								
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
テキスト	「幼稚園・保育所実習の手引」 東北女子短期大学 教職課程委員会・保育士課程委員会編								
参考書・資料等	必要に応じて資料を配付する。								
評価方法	実習先の評価(60%) 実習日誌(40%)								
履修上の注意等	学外実習は、実習施設と本学の緊密な進路・協議のもとに行われるので、実習生は事前の準備を十分にして、責任をもって臨んで下さい。								

科目番号	2257	単位	2	授業形態	実習	開講時期	集中	担当	保育士課程委員会
科目名	保育実習(2)								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 保育実習(1)での体験を基に、授業で学んだ知識や技能を応用させながら、保育活動の計画を立案・実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を身につける。</p> <p>テーマ 保育全般に参加しながら体験を通じて保育士の役割を学ぶ。</p>								
授業の概要	<p>保育現場において、授業で学んだ専門知識や技能を応用させながら総合的に実践し、子どもとのふれあいを通じて保育士の職務を体験的に学習する。</p>								
回	授 業 計 画								自主学习(授業前・授業後)
1	実習期間:平成31年8月16日～8月30日(13日間)								
2	実習施設:履修者の希望を基に実習先を決定する 保育実習(1)の実習園と同一園とする								
3	実習形態: 観察実習 参加実習 部分実習 全日実習								
4	観察実習 子どもの保育の基礎的、全般的な状況の把握								
5	参加実習 保育者の指導計画と指導方針に基づく補助的な活動への参加								
6	部分実習 一日の保育活動のうち、ある特定の活動に関する指導の実践								
7	全日実習 一日の保育活動すべてに関する総合的な指導の実践								
8	実習内容								
9	1. 保育所の役割や機能の具体的理解								
10	(1) 養護と教育が一体となって行われる保育(2) 保育所の社会的役割と責任								
11	2. 観察に基づく保育理解								
12	(1) 子どもの心身の状態や活動の記録(2) 保育士等の動きや実践の観察								
13	(3) 保育所の生活の流れや展開の把握								
14	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携								
15	(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解								
16	(2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援								
17	(3) 地域社会との連携								
18	4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価								
19	(1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解								
20	(2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価								
21	5. 保育士の業務と職業倫理								
22	(1) 多様な保育の展開と保育士の業務								
23	(2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理								
24	6. 自己の課題の明確化								
25	実習期間中に保育士課程委員会の教員が実習先を訪問し、学生との面談を通して指導・助言をする。								
テキスト	「幼稚園・保育所実習の手引」 東北女子短期大学 教職課程委員会・保育士課程委員会編								
参考書・資料等	必要に応じて資料を配付する。								
評価方法	実習先からの評価(60%)実習日誌の内容評価(40%)								
履修上の注意等	実習の意義・目的・内容を十分に理解したうえで、事前準備をしっかりと整えて実習に臨むこと。								

科目番号	2258	単位	1	授業形態	演習	開講時期	2年前期	担当	田中 恵
科目名	保育実習指導(2)								
課程	卒業必修		栄養士		栄養教諭		医療		フードサイエンティスト
			保育士		幼稚園教諭		ベビーシッター		
到達目標及びテーマ	<p>到達目標 保育実習の意義と目的を理解し、保育実習(1)での自己評価をもとに自己課題を明確にしたうえで、保育について総合的に学びながら保育実践力を培う。</p> <p>テーマ 保育実習(1)の体験を振り返り、実習の意義と目的の理解を深化させ、さらには保育士理解・保育内容を総合的に学ぶ。</p>								
授業の概要	保育実習(1)での体験を振り返りながら、自己の課題を明確にしたうえで、保育実践に向けて具体的な指導計画の作成や保育士の専門性と職業倫理等について学習する。								
回	授 業 計 画							自主学习(授業前・授業後)	
1	実習の意義・目的・内容の理解 保育実習(1)の体験を振り返り、自らの課題を明確にする。							保育実習の振り返り(プリント記入)	
2	実習の意義・目的・内容の理解 保育実習(1)の体験を振り返り、自らの課題を明確にする。							保育実習の振り返り(プリント記入)	
3	(保育の具体的理解)子どもの最善の利益を考慮した保育について考える。							子どもの最善の利益について考える。	
4	(保育士の理解)保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。							保育士の職業倫理について考える。	
5	実習の形態と意義 観察実習 参加実習 部分実習 全日実習の意義と具体的な内容について学ぶ。							保育実習の振り返り	
6	(実習に必要な書類作成)実習先に提出する必要書類の作成や事務手続きの方法を知る。							提出書類の記入項目について考える。	
7	実習記録の方法 記録の意義を理解し、記録の書き方について具体的に学ぶ。							保育実習(1)の日報を振り返る。	
8	実習記録の方法 記録の意義を理解し、記録の書き方について具体的に学ぶ。							保育実習(2)の目標を考える。	
9	指導計画作成の実際 指導案の必要性を理解し、作成のためのねらい、活動内容、配慮点を考える。							活動内容を考える。	
10	指導計画作成の実際 発達年齢に合った指導案作成のためのねらい、活動内容、配慮点を考える。部分実習の指導案を作成し、添削を受ける。							指導案を作成する。	
11	指導計画作成の実際 具体的な活動例に沿った指導案作成のためのねらい、活動内容、配慮点を考える。							活動内容を考える。	
12	指導計画作成の実際 発達年齢に合った指導案作成のためのねらい、活動内容、配慮点を考える。							指導案を作成する。	
13	指導計画作成の実際 指導案作成上の問題点について質疑応答をし、さらに理解を深める。							指導案を作成する。	
14	(実習中の心得)実習中の心構えを具体的に理解し、実習に対しての目的意識を高める。							講義内容をノートにまとめる。	
15	(実習後の振り返り)実習後には振り返りを行い、今後の課題を明確にする。							講義内容をノートにまとめる。	
テキスト	なし								
参考書・資料等	必要に応じて資料を配付する。								
評価方法	授業ノート(40%)レポート課題(60%)を総合して評価する。								
履修上の注意等	他の講義内容と関連させながら保育に関する知識を深めること。								